平成３０年度　第４７回全日本中学校特別活動研究会・東京大会

新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方

～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～

練馬区大泉学園駅北口前の「大泉アニメゲート」

練馬区立石神井東中学校体育館（大会会場）

平成３０年１１月１０日(土)

全日本中学校特別活動研究会
東京都中学校特別活動研究会

第４７回　全日本中学校特別活動研究会

東　京　大　会

大　会　主　題

新学習指導要領実施への
新たな特別活動の在り方

～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～

第４７回　全日本中学校特別活動研究会・東京大会

大　会　要　項

１　**趣　旨**　全日本中学校特別活動研究会は、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質･能力を育むことを目指した研究を推進して、４７回目の研究大会を迎えた。

今大会では、「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～」を大会主題とし、特別活動の在り方を追究する。

２　**大会主題**　新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方
～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～

３　**期　日**　平成３０年１１月１０日（土）

４　**主　催**　全日本中学校特別活動研究会・東京都中学校特別活動研究会

５　**後　援**　文部科学省　東京都教育委員会
練馬区教育委員会　全日本中学校長会
東京都中学校長会　東京都中学校教育研究会
日本特別活動学会　練馬区立中学校教育研究会

６　**会　場**　東京都練馬区立石神井東中学校（体育館、第３学年教室　等）
〒177-0033　東京都練馬区高野台１－８－３４
西武池袋線「練馬高野台」駅北口　徒歩３分

7　時程・内容

９：００　　受付

９：３０～１０：３０　　全体会【会場：体育館】

１０：４５～１１：３５　　授業参観【会場：第３学年教室】

１２：００～１３：００　　昼食・受付

（１１：４５～１２：４５）　全国理事会【会議室】

１３：００～１４：１５　　分科会発表・研究協議・指導講評・講演

第１分科会〈学級活動Ａ〉　　【会場：３－１教室】

第２分科会〈学級活動Ｂ〉　　【会場：３－２教室】

第３分科会〈生徒会活動〉　　【会場：３－４教室】

第４分科会〈学校行事〉　　【会場：３－５教室】

１４：１５～１４：３０　　分科会ごとにまとめ・会場片付け

１４：３０～１６：３０　　記念講演【会場：体育館】

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課

主任学校教育官　降籏　友宏　先生

演題：「新学習指導要領における特別活動の在り方について」

8　全体会式次第

平成３０年１１月１０日（土）　９：３０～１０：３０

会場：東京都練馬区立石神井東中学校　体育館

(1) 開会のことば

(2) あいさつ

第４７回全日本中学校特別活動研究会

東京大会実行委員長　　青木由美子

全日本中学校特別活動研究会 会長　　上岡 祥邦

(3) 祝辞

東京都教職員研修センター　研修部長　大和 義行　様

練馬区教育委員会教育長　　河口 浩　　様

(4) 来賓紹介

(5) 基調提案 東村山市立東村山第五中学校　吉川 滋之

(6) 閉会のことば

★研究発表

分科会	発表都県	発表内容	発表者
第１分科会 学級活動Ａ 会場　３－１	神奈川県	掲示物を通した「クラス形成」と「キャリア形成」～自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく学級活動～	横浜市立 中川西中学校 教　諭　山田　真也
第２分科会 学級活動Ｂ 会場　３－２	東京都	これからの社会を生き抜くための資質・能力を育成する学級活動 ～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～	練馬区立 石神井東中学校 主幹教諭　藤本謙一郎
第３分科会 生徒会活動 会場　３－４	東京都	「SDGｓの達成に向けた学校教育の取組」	大田区立 大森第六中学校 教　諭　茂谷　厚
第４分科会 学校行事 会場　３－５	東京都	学校行事における指導と評価の一体化 ～ルーブリック評価を取り入れた事前・事後指導を通して～	国分寺市立第一中学校 校　長　後藤正彦 教　諭　小松　咲

指導助言者	運営委員（東京都）	
東京女子体育大学・短期大学 教授 美谷島 正義 先生	会場責任者 司　会	東村山市立東村山第三中学校 萩山分校 主幹教諭　伊木　文枝
	記　録	江戸川区立小岩第三中学校 主任教諭　加藤　拓人
東京音楽大学 特任教授 関本　惠一　先生	会場責任者 司　会	江東区立有明西学園 主任教諭　有川　直志
	記　録	江戸川区立松江第一中学校 教諭　小野　貴史
文教大学 教授 米津　光治　先生	会場責任者 司　会	練馬区立開進第三中学校 主任教諭　吉田　義和
	記　録	江戸川区立小岩第三中学校 主任教諭　田中　識啓
帝京大学教育学部長 教授 和田　孝　先生	会場責任者 司　会	江戸川区立小松川第二中学校 主幹教諭　原　奈都子
	記　録	狛江市立狛江第一中学校 教諭　桒原　美絵

目　　次

1　あいさつ

全日本中学校特別活動研究会 会長・・・・・・・・・・・・・・・・・ 上岡　祥邦　　7
第４７回全日本中学校特別活動研究会・東京大会 実行委員長・・ 青木　由美子　8

2　お祝いの言葉

東京都教育長教育監
東京都教職員研修センター 所長 ・・・・・・・・・・・・・・・・増渕　達夫　様　9
練馬区教育委員会 教育長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・河口　浩　　様　10

3　基調提案

東村山市立東村山第五中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・吉川　滋之　　11

4　記念講演
文部科学省初等中等教育局教育課程課 主任学校教育官・・・・・降籏　友宏　様　13
演題「新学習指導要領における特別活動の在り方について」

5　研究発表

◇第１分科会（学級活動Ａ）
横浜市立中川西中学校　　教　　諭　山田　真也　16
掲示物を通した「クラス形成」と「キャリア形成」
～自分の役割を果たしながら、自分らしい
生き方を実現していく学級活動～

◇第２分科会（学級活動Ｂ）
練馬区立石神井東中学校　　主幹教諭　藤本謙一郎　22
これからの社会を生き抜くための資質・能力を育成する学級活動
～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～

◇第３分科会（生徒会活動）
大田区立大森第六中学校　　教　　諭　茂谷　厚　32
「ＳＤＧｓの達成に向けた学校教育の取組」

◇第４分科会（学校行事）
国分寺市立第一中学校　　校　　長　後藤　正彦　40
国分寺市立第一中学校　　教　　諭　小松　咲
学校評価における指導と評価の一体化
～ルーブリック評価を取り入れた事前・事後指導を通して～

6　資料
・全日本中学校特別活動研究大会の歩み　49
・全日本中学校特別活動研究会会則　51
・全日本中学校特別活動研究会理事一覧　53
・第４７回全日本中学校特別活動研究会・東京大会実行委員一覧　54

ごあいさつ

全日本中学校特別活動研究会
会長　上岡　祥邦
（足立区立六月中学校）

第４７回全日本中学校特別活動研究会を関係各位のご厚意とご尽力により、東京大会として開催できますことを、心より感謝し、御礼申し上げます。本大会の開催にあたり、文部科学省、東京都教育委員会、練馬区教育委員会、東京都中学校教育研究会、練馬区立中学校教育研究会、全日本中学校長会、東京都中学校長会、日本特別活動学会の皆様には、温かいご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。特に本大会の会場を提供いただきました練馬区ならびに練馬区立石神井東中学校の関係各位には深甚より感謝申し上げます。

さて､平成２９年３月に新学習指導要領が告示され､同年７月には解説が示されました。特別活動においては、平成３０年度より新学習指導要領に示された内容で実施することとなり、すでに各校で実践されていることと思います。今さら言うまでもないことですが、今回の改定では、各教科等の学びを通して育成することを目指す資質・能力を三つの柱により明確に示しつつ、それらを育むにあたり、生徒がどのような学びの過程を経験することが求められるか、さらには、そうした学びの過程において、質の高い深い学びを実現する観点から特別活動の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を働かせることが求められることが示されました。特別活動の目標においても､「人間関係形成」､「社会参画」､「自己実現」という三つの視点を手がかりとしながら資質・能力の三つの柱に沿って目標が整理されています。また、中学校学習指導要領で「学級経営」という文言が初めて用いられ、学校における全教育活動において、学習や生活としての「学級」の重要性と「学級経営」の必要性が明記されています。

一方で課題として、特別活動は「なすことによって学ぶ」ことを方法原理として、各学校において特色ある取組が進められていますが、①各活動・学校行事において身に付けるべき資質・能力は何なのか、②どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につなげるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきたという実態を指摘されています。そうした意味で、③教育過程全体における特別活動の役割や機能も明らかにする必要性が求められています。

本大会においては、現場における実践を元にした発表・討議と文部科学省初等中等教育局、教育課程課主任学校教育官でいらっしゃる降籏友宏先生の記念講演で構成され、改めて、新学習指導要領実施へ向けて皆様と学び合える場であれば、と思っています。本大会で得られたことを各都道府県・区市町村にお持ち帰りいただき次世代を担う子供たちの育成に生かしていただきますとともに、特別活動のネットワークが広がっていきますことを切に祈念いたします。

最後になりましたが、本大会に運営にあたられました実行委員の皆様、発表者、指導・助言をいただきました先生方、そして全国理事の皆様方のご厚情に感謝申し上げ、あいさつといたします。

第 47 回全日本中学校特別活動研究会・東京大会の開催にあたって

第 47 回全日本中学校特別活動研究会
東京大会実行委員長　青木　由美子
（小平市立小平第五中学校）

第 47 回全日本中学校特別活動研究会を東京都において開催できますことを厚く御礼申し上げます。本大会は昭和 47 年に第 1 回大会が東京都板橋区で開催され、今回で 47 回目、東京での開催は 14 回目となります。今年度は、改訂された学習指導要領において特別活動が先行実施を始めた年度でもあり、このような中、東京で本研究大会を開催できますことは大きな喜びであります。

今回の大会では、その研究主題を「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」とし、副主題を「様々な集団活動を通して自己有用官を高める指導法の工夫」として、先行実施されている新学習指導要領における特別活動の指導について、研究を深めることができればと考えました。

新しい学習指導要領においては、その実施にあたって、育成を目指す資質・能力「知識･技能」「思考力･判断力･表現力等」「学びに向かう力･人間性等」という３つの柱が示されるとともに「主体的･対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。特に、特別活動においては、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つが指導上の重要な視点として掲げられ、積極的に社会参画する力や話合い活動を通して合意形成や意思決定すること、役割分担して協力し合うことの重要性などが述べられています。また、日本の子供達の自尊感情の低さが指摘される中で、次代を担う子供達には、自分に自信をもたせ、将来への夢や希望の実現に向けて、生きる力の育成を図ることが大切であり、このことからもこれからの特別活動の役割を痛感しているところです。

そうした中、本大会には、文部科学省初等中等教育局教育課程課の降籏友宏主任学校教育官をお招きすることができました。新学習指導要領における特別活動の在り方についてご講演をいただけることは、私たち特別活動の研究者にとって、大変貴重な機会であります。また、会場となります練馬区立石神井東中学校では、学級活動の公開授業を行い、午後の分科会では４校の先生方から実践を発表していただくとともに、講師の先生方からご指導をいただきます。これらの内容を通して、私たちが日々感じている特別活動の課題を明確にするとともに今後の特別活動の展望について学べる機会となると信じております。

最後になりますが、本大会を迎えるにあたり、お忙しい中、記念講演の講師を快く引き受けてくださいました文部科学省初等中等教育局教育課程課の降籏友宏主任学校教育官、分科会講師の美谷島正義先生、関本惠一先生、米津光治先生、和田孝先生に感謝するとともに、会場をご提供いただきました練馬区立石神井東中学校堀井安伸校長先生を始め、東京都教育委員会、練馬区教育委員会、東京都中学校教育研究会、練馬区立中学校教育研究会、全日本中学校長会、東京都中学校長会、日本特別活動学会、関係機関の皆様方に厚く御礼を申し上げ、開催にあたっての挨拶といたします。

祝 辞

東京都教育庁教育監
東京都教職員研修センター所長
増渕 達夫

第 47 回全日本中学校特別活動研究会東京大会が開催されますことに対し、心よりお祝い申し上げます。また、これまで本会が中学校における「特別活動」の充実・発展に多大なる貢献をしてこられたことに、深く敬意を表します。

平成 29 年 3 月告示の中学校学習指導要領では、子供たちに育成すべき資質・能力について、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。各学校においては、子供たちがこれらの資質・能力を身に付け、生涯にわたって主体的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、教育活動を充実させていくことが求められています。

「特別活動」における「深い学び」を実現するためには、子供たちが集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考え方を認め合うことや、等しく合意形成に関わりながら自身の役割を担うことが重要です。そして、このことを実現するためには、教員が学習指導要領の趣旨を正しく理解し、指導力を向上させる取組が不可欠です。

東京都教育委員会では、授業研究や協議等を通して教科等の専門性と授業力の向上を図る「東京教師道場」や、各教科等に関する指導内容・方法等の実践的研究を行う「教育研究員」において、「特別活動」に関する部会を設定するなど、様々な取組を推進しています。

本大会の研究主題「『新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方』～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～」は、「特別活動」のこれまでの成果と課題を踏まえて設定されたものと拝察します。各活動において身に付けるべき資質・能力は何か、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのか、教育課程全体における「特別活動」の役割、機能は何か、などについても議論を深め、これからの「特別活動」の指導の在り方について具体的な御提案をいただけるものと期待しています。そして、御参会の先生方には、本大会での成果を、各都道府県の研究会や所属の学校の先生方に周知してください。

ここにお集まりの皆様が、中学校における「特別活動」の充実と発展のために一層御活躍されるとともに、本研究会の益々の御発展を心から祈念いたしまして、東京都教育委員会からの挨拶といたします。

お祝いの言葉

練馬区教育委員会
教育長　河口　浩

第４７回全日本中学校特別活動研究会東京大会の開催をお祝い申し上げます。今回は練馬区での開催ということで、大会関係者および参加者の皆様を心から歓迎いたします。

情報化やグローバル化の進展に伴い、社会や産業の構造が大きく変化し、将来を予測することが困難になっています。社会の担い手となる生徒には、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら変化を乗り越えていく力が求められます。こうした中、合意形成から意思決定へのプロセスを重視し、自治的能力や社会参画する力を培う特別活動の教育的意義は、ますます高まっていくものと捉えています。

本大会の主題は「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」、副題は「様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導の工夫」と伺っております。平成２９年３月に新学習指導要領が告示され、特別活動については今年度からその趣旨を踏まえた実施となっています。

特別活動の改訂においては、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の３つの視点と、各教科と同様の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」の３つの資質・能力の柱に沿って目標と内容の整理が行われました。また、各内容はより具体的な記載となり、重視する学習過程が示されるなどの改善が図られております。日々の実践では、各活動において生徒に身に付けさせたい資質・能力をしっかりと見据え、計画的に指導していくことが、これまで以上に求められています。

本大会における授業公開、実践発表等に基づく活発な議論が、新学習指導要領の理解の深まりにつながることを大いに期待しております。そして、本大会の成果を踏まえた各学校における今後の指導の充実によって、副題に示されるとおり、生徒一人一人の「自己有用感」が高められることを願っています。

結びに、本大会の開催にあたりご尽力いただきましたすべての関係者の皆様に心から感謝申し上げるとともに、ご参会の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。

基調提案
第 47 回　全日本中学校特別活動研究会　東京大会
主題

『新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方』
～様々な集団活動を通して、自己有用感を高める指導法の工夫～

１．主題設定の理由と特別活動のもつ役割

今後の日本は、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、人工知能（ＡＩ）の飛躍的な進化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は急速に変化し、予測困難な時代になると言われている。

新学習指導要領が目指しているのは、21 世紀の学校生活を、特にこれから 10 年 20 年後の世界に生きる子供たちのためによりよくしていくことであり、学校の課題を再定義し、社会に開かれた教育課程の実現を図っていくことである。この予測困難な時代の中で、子供たちが主体的に社会を生き抜き、他者と関わり合いながら、よりよく生きようとする力の育成が今まさに教育現場に求められている。

今回の教育課程の基準の改定は、次の３つがポイントとなっている。

（１）子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。
（２）実社会で生きて働く汎用的な資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を３つの柱とし、各教科等が共有して、確かな学力の育成を目指す。
（３）道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成する。

これまでの学校教育の中で、特別活動は、多様な集団の中で、生徒一人一人がよりよい人間関係を築く力や自主的、実践的な能力を養うことに大きな役割を果たしてきた。さらにこうした能力を育成することは、生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や、社会で生きて働く力を育むことにつながってきた。

近年の未来志向型コンピテンシーの定義や未来志向型プログラムの開発をみると、日本の特別活動は諸外国からも注目されており、我々が特別活動のもつ力やその意義をより深く理解し、新学習指導要領の改訂においてもその機能と効果を丁寧に分析していくことで、世界基準にもなり得る大切な教育活動であるといえる。

新学習指導要領において、特別活動では、これまでの教育課程上果たしてきた資質・能力について『人間関係形成』『社会参画』『自己実現』を３つの視点とし、さらなる育成を図ろうとしている。

学校とはひとつの社会であり、その中での生徒のよりよい生活づくりの活動を通して、社会で生きてはたらく実践的な態度を育成することが、特別活動の教育上の役割である。特別活動で育てた力は、教科等で学んだことを汎用的な能力にまで高める役割を担っており、社会に出て実践的に働く力となること等、特別活動の教育課程上の役割がより一層明確に価値づけられたといえる。

２．研究主題と本大会での重点

本大会では、主題を『新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方』とし、副主題を『様々な集団活動を通して、自己有用感を高める指導法の工夫』とした。これまで、本研究会で長年にわたり進めてきた「豊かな人間関係づくり」をもとに、新学習指導要領の実施に向け、新たな特別活動の展開を目指すこととした。

学級活動の公開授業と実践報告では、多様な個性をもった集団の中で、役割や責任をもたせ、集団活動での合意形成を図るための話合い活動、キャリア形成と豊かな自己表現を図る上での PDCA サイクルの展開を目指し、提案していく。様々な役割を担ったり、一人一人が合意形成に参画したり、豊かな人間関係づくりをもとに、協働して楽しく規律ある生活を築こうとしていく場面を意識してもたせることで、自己有用感を高める機会をつくっていきたい。教師は、生徒の自主的、実践的な活動を助長し、常に生徒自身による創意工夫を引き出すように指導していく。ここで養われる力は、社会生活の中心となる職場集団や家庭で主体的に関わろうとする態度や自己実現を図るために必要な力を養うことにつながるといえる。

生徒会活動の実践報告では、集団や社会の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して諸問題の解決を行おうとする力を養わせ、地域社会での自治的な活動につながっていくための活動を提案していく。

学校行事の実践報告では、生徒が主体的に計画・運営にあたり、学年・学級集団や学年を越えた異年齢集団の中で、共通理解を図りながら自主的・実践的な活動を行うことを提案していく。地域・社会における行事や催し物など、様々な人間関係で構成される大集団の中で、所属感や連帯感を深めながら、ひとつの目標に向かって取り組むための活動につながっていく。

新学習指導要領で示された特別活動を実践するにあたり、集団や社会の一員として、「なすことによって学ぶ」活動を通して、具体的に中学校の教育現場で何をしたらよいか研究・検討し、有意義な実践につなげていくことがきるよう、本大会でも意欲的に情報発信していきたい。教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とした指導をもとに、生徒が望ましい人間関係を築くことができるようになること。課題を生徒と共に考え、共に歩もうとする教師の公平かつ受容的な姿勢や態度により、生徒一人一人がより大きく輝いていくのだということを再確認し、特別活動のさらなる発展を目指していきたい。大会主題に迫った研究成果を、皆様と達成できるようにご協力を願う次第である。

◇記念講演

「新学習指導要領における
特別活動の在り方について」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 主任学校教育官

降籏　友宏　様

＜略　歴＞

平成１３年４月　文部科学省入省
平成１７年４月　初等中等教育局教科書課　企画係長
平成１８年７月　初等中等教育局財務課　専門職
平成２０年４月　大臣官房人事課　専門官
平成２２年４月　研究開発局環境エネルギー課　課長補佐
平成２３年４月　長崎県教育委員会　生涯学習課長
平成２５年７月　生涯学習政策局情報教育課　課長補佐
平成２７年 10 月 内閣官房日本経済再生総合事務局　参事官補佐
平成２９年 10 月 初等中等教育局教育課程課　学校教育官
平成３０年４月　現職

研　究　発　表

第１分科会（学級活動 A）

掲示物を通した「クラス形成」と「キャリア形成」

～自分の役割を果たしながら、
自分らしい生き方を実現していく学級活動～

横浜市立中川西中学校　　教　諭　　山田　真也

第２分科会（学級活動 B）

これからの社会を生き抜くための
資質・能力を育成する学級活動

～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～

練馬区立石神井東中学校　　主幹教諭　藤本謙一郎

第３分科会（生徒会活動）

「SDGｓの達成に向けた学校教育の取組」

大田区立大森第六中学校　　教　諭　　茂谷　厚

第４分科会（学校行事）

学校行事における指導と評価の一体化

～ルーブリック評価を取り入れた
事前・事後指導を通して～

国分寺市立第一中学校　　校　長　　後藤　正彦
国分寺市立第一中学校　　教　諭　　小松　咲

第１分科会　学級活動Ａ

掲示物を通した「クラス形成」と「キャリア形成」

～自分の役割を果しながら、自分らしい生き方を実現していく学級活動～

神奈川県横浜市立中川西中学校　教諭　山田真也

１　主題設定の理由

本校は、４小学校が集まる一学年平均８クラスの大規模校である。入学した４月は、互いに面識がない生徒も多く、新たな出会いに対して不安を抱える生徒も少なくないと考えた。そこで、掲示物を作ることが生徒同士のコミュニケーションの手段となればいいと考え、意図的、計画的に学級活動を行った。

日々の生活を共にする中で、生徒は、一人一人の意見や意志は多様であることを知る。新学習指導要領解説　特別活動編に『自己の個性を見つめ､それを大切にしていくことは、自己肯定感を高め、自己の確立や自己実現を図るための基盤となる。また、他者の個性を理解し互いに尊重し合うことは、自己理解を一層深めるとともに、豊かな人間関係を育んでいくことにつながる。』と記されている。

自然教室や体育祭など行事について､思い出や達成できたことなどを記述し一人一人が振り返ること､そしてクラスメイトが記入した内容を見合うことで､生徒同士が気持ちを共有することができ､他者の個性を理解し互いに尊重することで､学級の人間関係を築くことができると考えた。また､それを行事ごとに繰り返すことで生徒自身が自分の成長や変容を把握し、主体的な学びの実現を達成できると考え、本主題を実践した。

２　実際の学習過程

（１）問題の発見・確認

もっとみんなとコミュニケーションが取りたい

４月入学式が終わって二週目に入っても、学級の中の人間関係は自己紹介だけで､話す仲間は同じ小学校の出身生徒同士であり、学級として少し寂しいという意見が生徒から上がった。出会った人たちがどんな仲間たちなのか知るための手段として、学級目標の掲示物をクラス全員で制作することになった。

（２）解決方法の話合い　解決方法の決定

学級目標の掲示物のデザイン画を班で話し合って決めた。班で話し合うことでコミュニケーションを取るきっかけとなった。

デザイン画の決定について、各班でデザイン画の案を使ってプレゼンテーションを行い、話合いによって決定した。

みんなでコミュニケーションを取ることができる掲示物ってどんなものだろう？

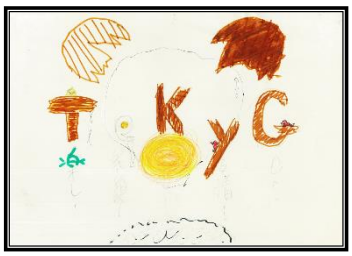
班ごとにみんなでコミュニケーションを取る手段を話し合う。

班ごとに決定した内容をデザイン画にする。

プレゼンテーションを行う。

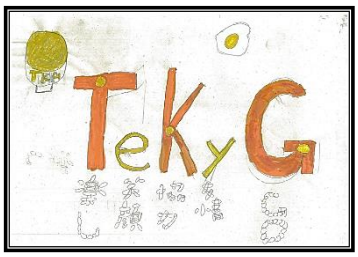
意見を出し合いながら、多様な意見を比較し、合意形成を行う。

【図１】実際のデザイン画参照

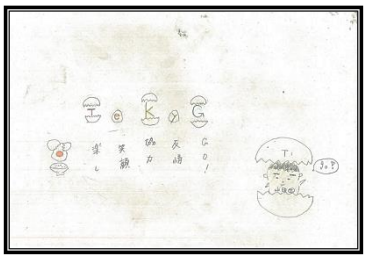


[A]

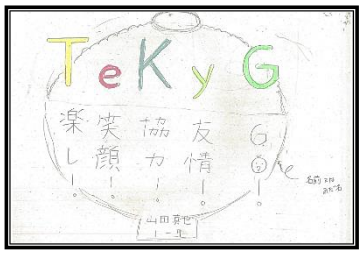
[B]



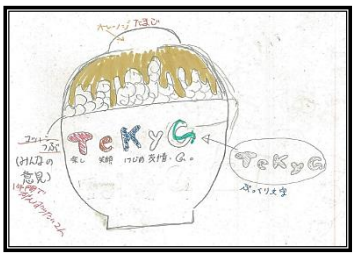
[C]



[D]



[E]



[F]

【写真１】実際のデザイン画

案Ｂは、どんなクラスにしていきたいか一人ひとり書く、案Ｅは一人一人の名前やあだ名を書く、案Ｆは米粒にみんなの意見（１年間でがんばりたいこと）を書くという内容のプレゼンテーションになった。「みんなの意見を見合いたい。」「思いやりのあるクラスにしたい。」という意見から、話合いの結果、案Ｂと案Ｆを合わせて米粒にどんなクラスにしていきたいか書いてもらうことになった。全体的なデザインは、「案Ａの卵が割れる瞬間のイラストは、元気があっていい。」「卵が落ちる瞬間のイラストが、楽しい。」「米粒がくっついていた方が、みんなで一緒というイメージがわくと思う。」等の理由で案Ａに決定した。

この話合い活動で大切にしたいと考えたのは、生徒一人一人の思いや願いを大切にしながら意見を出し合い、出された意見を比べ合い、学級の意見としてまとめて決める「合意形成」の過程である。全員が話合い活動に参加していると感じることができるよう初めに６人班でデザイン画の案を出し合った。

ここでは、**学級目標は全員のものであるということに気が付きながら、学級をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することが主体的にできるようにする力**を育てたいと考えた。

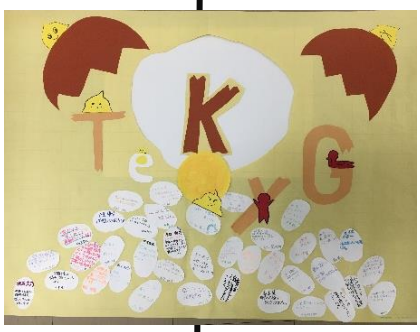
（３）決めたことの実践

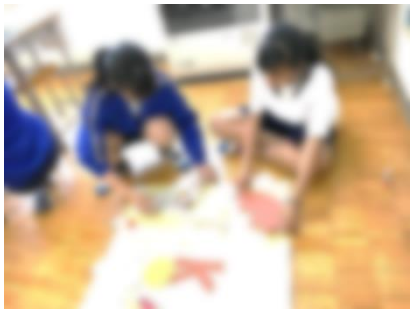
役割分担を行い、学級全員で制作している意識を持った。

デザインが決定したら、掲示物係がデザインをもとに役割分担を行った。学級全員で制作するという意識を持ちながら、それぞれが休み時間や放課後を利用して制作を行った。

一人一人「米粒」を模った画用紙にどんなクラスにしたいかを記入し、貼っていった。貼り終わり、全員で見合う時間を取ると、米粒に色を付けていたり、イラストを描いていたり、自分の得意な折り紙を貼っていたりと、一粒一粒に個性が溢れていた。それはまさに、目で見る「自己紹介」のように感じた。また、互いの米粒をじっくり見合う時間を取ることで、他者理解につながったと感じる。

ここでは、**自己の個性を発揮したり、友達のよさを認めたりしながら、多様な他者と協力して活動する力**を育てたいと考えた。





【写真２】学級目標を制作する様子

【写真３】学級目標に米粒を貼る様子

（４）振り返り

振り返りシートには、「米粒を貼っているとき、みんなで寄り添

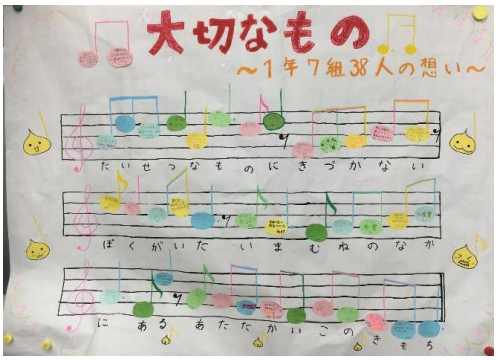
っているように感じました。１年間、みんなで一緒に協力しながらいいクラスを作っていきたいと思いました。」という意見が書かれていました。また別の生徒の振り返りシートには、「みんなで掲示物を作ることがとても楽しかった。次の行事もみんなで掲示物を作りたい。」「普段あまり話さない人の書いていることを見てみた。今度は話してみようと思った。」など掲示物を制作する作業を通してクラスがひとつにまとまったと感じることができた。

そして、多くの意見の中で出てきたように、１年間かけて掲示物をクラス全員で制作していくこととなった。

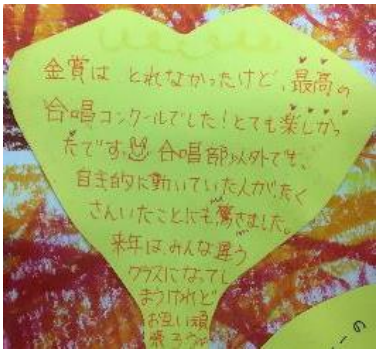
３　成果と課題

５月自然教室、６月体育祭、７月に行事はなかったが、毎月作りたいという意見から、七夕の短冊に夏休みの目標を一人一人書いて掲示した。

９月、これまでの掲示物は全て行事の振り返りを書くためのものであったが、合唱コンクールに向けて、その意気込みを共有したいという意見から全員の合唱コンクールに対する意気込みを書いてもらい掲示した。合唱コンクールが終わるまで、手の届くところに掲示しておいたところ、合唱練習で気が付いたことなどが書き足されていることに気が付いた。自己の取組を振り返り、主体的に改善しようとしている姿だと感じた。



【写真４】合唱コンクールに向けた意気込み



【写真５】合唱コンクールの振り返り

また、この合唱コンクールの振り返りでは「金賞はとれなかったけど、最高の合唱コンクールでした！とても楽しかったです。合唱部以外でも自主的に動いている人がたくさんいたことにも驚きました。来年は違うクラスになってしまうけれど、お互い頑張ろう。」といった、将来の生き方を描き、現在の生活を振り返るとともに、学級で友達と協働することの意義を理解する態度を養うことができたと感じた。この行事の振り返りから、自己の振り返りや感想だけではなく、友達のいいところや友達に対するメッセージを記入するようになった。

１年間を通して、生徒はその行事ごとに振り返りを行い、一人一人、書く内容も深まってきた。この取組の課題としては、書いた内容を掲示物にしてしまったために返却できなかったことである。ポートフォリオの作成と活用と通して、自身の成長や変容を自己評価

しながら、学級の仲間たちと共有した思い出の証を返却できなかったことが残念であった。

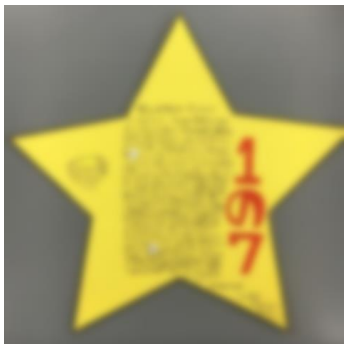
【写真６】１年間で制作した掲示物

４　研究のまとめ

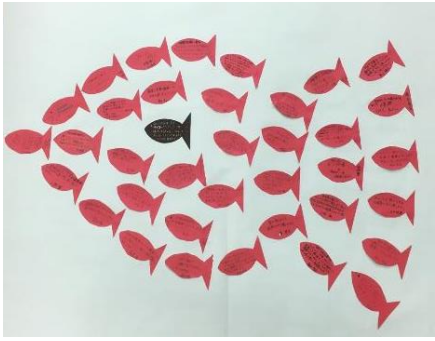
学級最後の掲示物は星を模ったものだった。それは、合唱コンクールの自由曲「大切なもの」の歌詞にちなんだものだった。『♪　空に光る星をきみと数えた夜　』最後の掲示物に何を書くか、何も言わずに掲示係がみんなに手渡していた。みんな思い思いに、クラスのみんなに宛てた手紙になっていた。男子学級委員のメッセージを紹介する。

『僕は１年７組の一員になれてとてもよかった。初めの委員会決めからとても緊張した。誰も手を挙げないから仕方なく学級委員になった。初めは「面倒くさい」と思っていた。だけど、やっているうちにとてもやりがいを感じられるようになってきた。
小学校の頃は、決して表に出ることはなく、人前に立つのも恥ずかしかった。だけど、学級委員の仕事をやるうちに、だんだん恥ずかしさもうすれていき、クラスの代表という自覚を持つようになった。
　後期も学級委員になろうと思ったのは、みんなの前で言ったこととともう一つあった。それは、最後まで責任を持ってクラスの代表としていようと思ったからだ。
そして、後期は、前期以上に学級委員として、クラスのみんなのために役に立てるようにしようと目標を立てた。役に立てたかどうかは、他の人の目線から見ないと分からないけど自分では、少しはクラスの役に立てたと思った。だけど、自分に妥協していることも多かった。そこは、この１年間で直せなかった部分だ。
　もう、１年７組に来るのは４日しかない。だから、その４日で自分の弱みを消すことができるように、クラスのみんなが最後まで楽しめるように学級委員として行動したい。それが、ダメな学級委員ができる最初で最後の仕事だ。それをしっかりとこなし、気持ちよく１年７組を終わりたい。１年７組　大好き。』　　【写真７】学級委員の星参照

この生徒は、学級委員として役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解しようとしていると感じた。そしてそれはこの生徒一人だけではなく多くの生徒が、活動過程を記述し振り返ることで、１年間の自身の成長や変容をこのように自己評価したり、将来を展望したりすることができていた。



【写真７】学級委員の星



【写真８】２年生での取組

新年度、２年生となり別々のクラスになっても、１年生の時の成功体験によって各クラスで生徒が自発的、自治的な学級の生活づくりを実感できる取組になったと感じた。

入学時、新しい学校生活に慣れることや様々な集団活動に参画して人間関係を築くことなどは､学級の生徒全員が協働して取り組んでいかなければ解決できない問題である。だからこそ、担任の意図的、計画的なガイダンスやカウンセリングが大切であり、安定した環境において、生徒一人一人が自分らしさを発揮して活動し、自らの生き方や将来に対する夢や希望を膨らませ目的意識を明確にすることのできる、心の居場所となれるような学級づくりが大切だと感じた。

第二分科会　学級活動Ｂ

これからの社会を生き抜くための資質・能力を育成する学級活動

～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～

東京都練馬区立石神井東中学校
主幹教諭　藤本　謙一郎

１　主題設定とその理由

現在 15 歳の中学３年生が成人して社会で活躍する頃,世の中は現在のものとは全く異なる厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されている。生産年齢人口の減少,人工知能(AI)の飛躍的な進化，社会構造や雇用環境の大きな変化など，これまでわが国が経験してきたことがこれからも通用する保証のない，予測困難な時代である。このような社会を生き抜くために必要な能力とは何であろうか。中央教育審議会は,「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申)」(平成 23 年１月）において,「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つの能力によって構成される「基礎的・汎用的能力」を定めている。平成 29 年に告示された学習指導要領の特別活動編の目標では,「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点で育成を目指す資質・能力について，以下の通りに述べている。

【知識及び技能（何を知っているか，何ができるか)】
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で，必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。

【思考力，判断力，表現力等（知っていること，できることをどう使うか)】
集団や自己の生活，人間関係の課題を見いだし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。

【学びに向かう力,人間性等(どのように社会・世界と関わり,よりよい人生を送るか)】
自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，人間としての生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動はキャリア教育の要であるので，上記の資質・能力がこれからの社会を生き抜くための資質・能力であるといってもよいだろう。実際，学級活動の目標には,「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし,解決するために話し合い,合意形成し,役割を分担して協力して実践したり，学級での話合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して，実践したりすることに自主的，実践的に取り組むことを通して，第１の目標に揚げる資質・能力を育成することを目指す」とある。生徒の生活環境で，家庭を除き一番長く生活する場は学校である。ゆえに，学校における諸問題を生徒自身が見付け，協力し合って自主的，実践的に解決へと取り組む経験は，予測困難な将来を生き抜くための資質・能力の育成であると考える。

以上の理由から，本主題を「これからの社会を生きるための資質・能力を育成する学級活動～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～」と設定した。

２　実践の内容

（１）　学校のプロフィール・子どもの実態

本校は，現在生徒数 517 名で，学級数は１年生５クラス，２年生４クラス，３年生５クラスと，練馬区では大規模校である。駅から徒歩数分の場所にあり，周りは住宅に囲まれている。部活動では，都大会，関東大会，全国大会にも出場する部がある。

例年 170 名～190 名程度の生徒が入学してくるのだが，区立中学校学校選択制度のため大きく変動することがある。現３年生は 196 名在籍しており，１クラスの上限人数ぎりぎりである。しかし現２年生は，154 名在籍で他学年より１クラス少ない。また，現１年生は 167 名と徐々に減少傾向にある。

生徒は穏やかな学校生活を過ごしており，運動会や合唱コンクールでは各クラス団結して積極的に取り組む。中学校は実行委員を中心に行事に取り組むことが多いため，中心となる生徒がリーダーシップを発揮して全体をよくまとめている。

（２）　話合い活動について

１クラスに 40 人近くが在籍している本校では，クラス全員での話合いも行うが，小集団での話合いの方が一人一人が話しやすかったりする。そこで，ジグソー法（＊１）の話合いやワールド・カフェ手法（＊２）の話合い，生活班での話合いを議題・題材に応じて適時活用した。次の表は時期と話合いの形式を分類した表である。

時期	議題・題材	話合いの形式
４月	前期生徒総会に向けた学級討議	ジグソー法
５月	運動会の大成功に向けて	ワールド・カフェ手法，ジグソー法
６月	いじめ撲滅宣言策定 SNS 学校ルール策定	生活班での話合い
９月	合唱コンクールの大成功に向けて	ワールド・カフェ手法，ジグソー法
１０月	後期生徒総会に向けた学級討議 学級レクの種目決め	ジグソー法 生活班での話合い
１１月	校外学習の大成功に向けて	ワールド・カフェ手法，ジグソー法
１月	スキー移動教室の大成功に向けて	ジグソー法
２月	卒業に向けた意識向上（予定）	ジグソー法
３月	理想の上級生になるために	ワールド・カフェ手法

※その他，「学級力向上プログラム」（＊３）の「学級力アンケート」「学級力レーダーチャート」を基にした学級活動も適時行っている。

主に，合意形成を図る学級活動（1）ではジグソー法や生活班での話合いを活用し，意思決定する学級活動（2）（3）ではワールド・カフェ手法の話合いを活用した。

（３）　学級活動指導案Ⅰ

①　議題　「修学旅行の大成功に向けて」

内容（１）ウ 学校における多様な集団の生活の向上

②　指導のねらい

修学旅行での生徒の自主的な活動を通して，学年・学級の一員としての自覚を高め，よりよい学校生活を築こうとする態度を育むとともに，集団に参画しようとする態度や目標を実現しようとする態度を育む。

③　指導の過程

ア　事前の指導と生徒の活動

日　時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月6日（木）	◇専門委員会 【学級委員会】 ・テーマ班のテーマ決め （6つ）	・これまでの校外学習や宿泊行事の経験から，自分たちで自主的・自治的に取り組むテーマを決めさせる。	・自分たちの目指す目標に向けて，テーマを深く掘り下げて決定している。［観察］
9月14日(金)	◇昼休み 【拡大班長会】 ・班長の役割の指導	・班長が生活の班員やテーマ班の班員に説明できるように，進行を理解させる。	・自分たちで運営できるよう，役割についてよく理解しようとしている。［観察］

イ　本時の指導と生徒の活動

a　本時の活動テーマ「修学旅行の大成功に向けて，皆で取り組む活動を決める」

b　本時のねらい

・話合い活動を通して，互いに役割をもって認め合う事の大切さを感じ，よりよい人間関係を築こうとする意欲を高める。

・活動内容を自ら企画することで，修学旅行の大成功に向けて主体的に取り組む姿勢を高める。

c　育てたい力

目標（１）	目標（２）	目標（３）
集団活動の意義や活動上の必要事項の理解と行動の仕方（知識及び技能）	生活や人間関係の課題の発見と解決のための話合い，合意形成，意思決定（思考力，判断力，表現力等）	人間関係等のよりよい形成，生き方の深化と自己実現を図ろうとする態度（学びに向かう力，人間性等）
よりよい集団生活やよりよい集団活動とは何かについて，話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し，合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。	修学旅行がよりよいものになるよう，課題を見いだし，解決するために話し合い，多様な意見を生かして合意形成を図り，協働して実践している。	修学旅行を充実したものにするために，自らの考えや目標を実現できるよう他者と協働しながら合意形成を図り，よりよい集団づくりを目指している。

d　教師の指導計画

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始5分	1　開会の言葉 2　今日の議題の説明 3　教師の話（補足）	・本時の議題発表と確認 ・話合い活動のエチケットの説明 	
活動の展開①20分	4　話合い活動① ・テーマ班ごとに分かれて，話合い活動を行う。 ・司会は生活班班長が行う。 【話合いのポイント】 （1）何ができるのか （2）どのような段取りで行うのか。 （3）役割分担をどうするか。 （4）協力してもらいたいことをどうするか。	・班の中で一人一人が主体的に考えたり，意見を述べたりすることができるように助言する。 ・話合い活動のエチケットが守られているか確認する。 ・生活班に戻った時にテーマ班で決めたことが正確に伝えられるよう，まとめておくことを確認する。 	・テーマに沿った活動を多角的に創り出している。[観察] ・役割分担を自発的に行っている。[観察]
活動の展開②10分	5　話合い活動② ・生活班に戻り，テーマ班で話し合った内容を報告し，情報を共有する。	・元の生活班に戻り，話し合った内容を責任もって報告することが，自分の役割を果たすことになると助言する。 	・報告を通して，合意形成を図ろうとしている。[観察]
活動の展開③10分	6　追加質問 ・テーマ班ごとに，追加の質問や意見があれば，挙げてもらう。	・原案をさらによいものにできる案はないか，しっかりと検討させる。 	・新たな視点を取り込むことで，合意形成の質を高めている。[観察]

活動のまとめ5分	7　ふりかえり ・ふりかえりシートに今日の活動内容について記入する。 8　学級委員会の話 ・学級委員会が授業中の活動について，良かった点や今後の課題について話す。 9　教師の話（講評）	・学級委員が具体的に意見を述べることができるよう，助言する。 ・本時の活動で，意見や考えを主体的に述べることができたか，互いを認め合いながら取り組むことができたかなど具体的に振り返らせる。	・ふりかえりシートに沿って，自己理解・他者理解を深めている。［ワークシート］ ・本時の活動を通して，新たな価値の発見を行っている。［ワークシート］

ウ　事後の指導と生徒の活動

日　時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月20日(木)	【拡大班長会】 クラス毎の活動内容を，学年の活動内容にまとめる。	・学年として取り組む活動になるように，助言する。	・学年全体での活動となるよう，活発に意見交換し，まとめている。［観察］
9月21日(金) ～ 10月5日(金)	テーマ班ごとに決めた活動内容を各自実践していく。	・生徒の自主的な活動が進んでいるか，確認し，助言する。	・自分たちが決めた活動を実践している。［観察］
10月8日（月） ～ 10月10日（水）	◇修学旅行（京都・奈良）	・生徒の自主的な活動が進んでいるか，確認し，助言する。	・自分たちが決めた活動を実践している。［観察］
10月12日（金）	テーマ班ごとの振り返り	・自分たちの活動の良かった点，改善点を振り返らせ，次の活動に生かすように助言する。	・活動の評価について，よさを見つめ，今後の改善点を深く考えている。［ワークシート］

④　大成功に向けて学級委員会で話し合って設定した6つのテーマについて

テーマの内容	活動内容
時間を守ろう	集団での生活がきちんと過ごせるよう，時間についての意識向上を考える。
感謝の気持ちを伝えよう	修学旅行でお世話になる方たちに感謝の気持ちを伝える取組を考える。
京都について知ろう	京都について，知識が深まる取組を考える。
奈良について知ろう	奈良について，知識が深まる取組を考える。
公共のマナーについて考えよう	バス，新幹線，電車の利用や歩道を歩く際，皆が守るべきマナーを考える。
宿舎内の生活を考えよう	皆が過ごしやすくなるような宿舎生活について考える。

（４）学級活動指導案Ⅱ

① 題材　「理想の上級生になろう」

内容（２）ア 自他の個性の理解と尊重，よりよい人間関係の形成

② 指導のねらい

「理想の上級生とはどんな姿なのか」ということについてワールド・カフェ手法で話し合う活動を通して，新たな上級生像（価値観）を創り出す態度を育む。また，話合い活動を通して，自分のよさや友達のよさを理解し，個性を伸長しようとする態度を育む。

③ 指導の過程

ア 事前の指導と生徒の活動

日　時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
2月13日(木)	◇昼休み 【学級委員会定例会】 ・学級委員の役割の指導	・学級委員が司会・進行を務めることができるよう，流れを理解させる。	・自分たちで運営できるよう，役割についてよく理解しようとしている。［観察］
	◇放課後 【拡大班長会】 ・班長の役割の指導	・班長が班員に説明できるように，流れを理解させる。	・自分たちで運営できるよう，役割についてよく理解しようとしている。［観察］

イ 本時の指導と生徒の活動

a 本時の活動テーマ　「理想の上級生になるために，自分の目標を決める」

b 本時のねらい

・話合い活動を通して，互いに役割をもって認め合う事の大切さを感じ，よりよい人間関係を築こうとする意欲を高める。

・活動内容を自ら設定することで，自己実現の意識を高める。

・理想の上級生について考えることで，自己の個性を伸長しようとする態度を高める。

c 育てたい力

目標（１）	目標（２）	目標（３）
集団活動の意義や活動上の必要事項の理解と行動の仕方（知識及び技能）	生活や人間関係の課題の発見と解決のための話合い，合意形成，意思決定（思考力，判断力，表現力等）	人間関係等のよりよい形成，生き方の深化と自己実現を図ろうとする態度（学びに向かう力，人間性等）
理想の上級生の姿を基に自分の目標を決めることで，よりよい人間関係が築けることを理解できるようになる。	「理想の上級生」について話し合うことで，学校生活や人間関係の課題について考え，意思決定を具体的に行っている。	意思決定の内容をより具体的にすることで，自己実現しようとする姿を明確にとらえ，実践しようと目指している。

d　教師の指導計画

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始5分	1　開会の言葉 2　今日の議題の説明 3　教師の話（補足） 	・本時の活動内容がきちんと伝わるよう，司会担当を指導しておく。 ・話合い活動のエチケットが全員に理解できるよう，説明させる。	
活動の展開①10分	4　話合い活動① ・生活班で「上級生としての自分」を議題に話合い活動を行う。 ・各班に模造紙を配布し，話合いの中で挙がったアイディア等を自由に記入させる。 	・入学当初，上級生にお世話になった経験から，自分が上級生になった時の役割を考えたり，今の自分の課題を考えたりして話し合うよう，助言する。 ・班の中で一人一人が主体的に考えたり，意見を述べたりできるよう，助言する。 ・模造紙への書き込みを奨励し，話合いの補助資料とする。 ・話合い活動のエチケットが守られているか確認する。 ・次の班に移った時に自分の意見が伝えられるよう，助言する。	・一人一人が積極的に意見を述べている。［観察］ ・意見を聞いて，それに対する新たな意見を付け加えている。［観察］ ・司会役の生徒が班員全員に話す機会をきちんと設けている。［観察］
活動の展開②10分	5　話合い活動② ・メンバーの組み合わせを変え，同じ議題で話合い活動を行う。 ・班長はテーブルに残り，新メンバーに生活班で話し合った内容を伝える。 ・新メンバーも前の班で話し合った内容を伝え，互いに話合いを深める。	・班長は，新しい班員の話をきちんと報告させるため，司会の役割を果たすよう，助言する。 ・元の生活班に戻り，話合いの内容を各自の責任で報告することが，自分の役割を果たすことになると助言する。 	・一人一人が積極的に意見を述べている。［観察］ ・意見を聞いて，それに対する新たな意見を付け加えている。［観察］ ・司会役の生徒が班員全員に話す機会をきちんと設けている。［観察］

活動の展開③10分	6　話合い活動③ ・元の生活班に戻って，前の班で話し合った内容を報告する。 ・班長はテーブルに残り，戻った生活班のメンバーに話し合った内容を伝える。 ・戻ったメンバーも前の班で話し合った内容を伝え，互いに話合いを深める。	・班長は，班員の話をきちんと報告させるため，司会の役割を果たすよう，助言する。 ・活動②の班での話合いをしっかりと生活班のメンバーに伝えられるよう，助言する。 	・一人一人が積極的に意見を述べている。［観察］ ・意見を聞いて，それに対する新たな意見を付け加えている。［観察］ ・司会役の生徒が班員全員に話す機会をきちんと設けている。［観察］
活動の展開④10分	7　自分の目標を決める ・ワークシートに記入し，自分の目標を決める。	・具体的な目標が立てられるよう，助言する。 	・自分の目標を，具体的に立てている。［ワークシート］
活動のまとめ5分	8　学級委員の話 ・学級委員会が授業中の活動について，良かった点や今後の課題について話す。 9　教師の話（講評）	・学級委員が具体的に意見を述べることができるよう，指導する。 ・本時の活動で，意見や考えを主体的に述べることができたか，互いを認め合いながら取り組むことができたかなど具体的に振り返らせる。	・本時の活動を通して，新たな価値の発見を行っている。［ワークシート］

ウ　事後の指導と生徒の活動

日　時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
2月24日(月) ～	・話合い活動を通して自分が決めた目標を実践する。	・目標の達成に向けて話合い活動での決定事項を実践しているかどうかを確認し，必要に応じて助言する。 ・生徒の活動意欲が高まるように助言する。	・自分たちが決めた活動を実践している。［観察］
3月14日(金)	◇三年生を送る会 ・三年生を送る会において，上級生の活躍を再度確認するとともに，自分たちが目標に対してどの程度実践でき	・上級生の活躍を多く見つけられるよう，助言する。 ・上級生の活躍を見て，自分たちの現状はどの程度なのか，振り返りをさせる。	・上級生の活躍を見て，新たに自分の行動を改善していこうとしている。［観察］

	ていたのか振り返る。		
3月20日(木)	◇学級活動 ・これまでの取組を振り返り，目標に対する自己評価・他者評価をする。	・目標に対して，取組が進んでいるかどうか，振り返りをさせる。	・これまでの活動を振り返り，将来の自分について「どうあるべきか」ということを考えている。［ワークシート］

３　成果と課題

３年間を通じて，多様な集団活動で自主的・実践的な話合い活動を行ってきた。特に今年度は新学習指導要領の先行実施にともない，資質・能力の育成を意識してきた。その結果，生徒は自分たちの諸問題についてよく話し合い，解決をするための方策を練ることに長けてきた。２年次のスキー移動教室では，その日の課題に対する改善策を話し合い，実践し，日々行動が成長していった。また，楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U調査でも数値が向上している。不登校生徒も３年間を通じて３名程度に収まっており，学年全体の1.5％程度となっている。さらには，「任せることができる生徒」が増えていることが実感できる。教師の指示を待たず任せる事で，自らの考えを引き出し，行動できる生徒が増えている。行事では教師の想像を超える行動が見られ，感動すら覚えることがある。このように，新たな価値の創造をたくましく進め，よりよい学校生活づくりに励む生徒集団になってきている。

課題として２点述べる。１点目は学年全体での学級活動を推進したので，学級ごとに議題や題材を設定した学級活動が行えなかったことである。行事で学級活動の内容が制限されてしまうので，話合い活動のための学級活動は生徒会活動や学校行事に関連したものに限られてしまった。もっと学級独自の議題や題材で学級活動が行われると，生徒にとってより現実的な生活における諸問題の解決ができたのではないかと思う。２点目は小学校でよく行われている「学級会」の形での学級活動の実践ができていないことである。小学校で培った話合い活動を中学でどのように昇華させることができるのか，今後は連携を深めて，取り組んでいく必要がある。

４　研究のまとめ

平成25年度東京都教育研究員の特別活動部会に参加し，計６年間特別活動を実践してきた。前半の３年間では生徒の変容をはっきりと感じ，特別活動の有用性を強く意識することができた。後半の３年間では特別活動のさらなる充実を目指して実践してきた。特にこの１年間は，新学習指導要領が先行実施されるにあたり，「これからの社会を担う若者」の育成について，思いを寄せながら取り組んできた。本研究では，「これからの社会を生きるための資質・能力を育成する学級活動～様々な集団活動を通して磨く資質・能力～」を主題として，予測困難な将来を生きる資質・能力の育成をどのように図るのか，研究・実践を進めてきた。「予測困難」というからには「新たな価値の創造」といった「過去のモデルにとらわれない自由な発想」が必要であろう。そこで，生徒の自由な発想を取り入れた学校生活を，生徒自身で運営・参画できる場面を設け，活動してきたことを振り返ると同時に次に活かしていくというサイクルで，生徒の資質・能力の育成を図ってきた。いわゆるPDCAサイクルである。その結果，学校生活の様々な場面で，生徒たちは自分たちの力を遺憾なく発揮し，自主性や自治性を高めている。教師の目線ではまだ不十分に感じるとこ

ろもあるが，予想外に秀でた活動もあり，生徒は一人一人自分の個性を発揮して成長している。

さて，「予測困難な未来」について考えるとき，このような PDCA サイクルも実は「過去のモデル」であるのかもしれないと思わずにはいられない。これまでの経験がこれからも通用する保証がない時代であるからである。また，内閣府が示す「Society 5.0（＊４）」の世の中が到来したとき，現在の「特別活動」はその時代に耐えうるものなのであろうか。過去の学習指導要領からの改訂ということではなく，将来に備えた学習指導要領の改訂という視点を持ち，「今後の特別活動の在り方」について，研究・実践を進めていく必要があると考える。

○　注釈

＊１　ジグソー法

アメリカの社会心理学者エリオット・アロンソンらが提唱した学習スタイルで，共同学習を促すために編み出された方法である。例えば，１つの長い文章をいくつかの部分に分け，グループ内で分担して勉強する。そしてそれを持ち寄って，お互いに自分が勉強したところを紹介しあい，ジグソーパズルを解くように全体像を協力して浮かび上がらせる。

＊２　ワールド・カフェ

１９９５年，アニータ・ブラウン氏とデイビッド・アイザックス氏によって開発・提唱された対話の手法。本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で，テーマに集中した対話を行う。メンバーの組み合わせを変えながら，４～５人単位の小グループで話合いを続けることにより，あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる。なお，本来のワールド・カフェは９０分以上かけて行うので，ここでは「ワールド・カフェ手法」として扱う。

＊３　学級力向上プログラム

早稲田大学大学院の田中博之教授が提案する学級経営の手法。

＊４　Society 5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する，人間中心の社会（Society)。狩猟社会（Society 1.0)，農耕社会（Society 2.0)，工業社会（Society 3.0)，情報社会（Society 4.0）に続く，新たな社会を指すもので，第５期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。（内閣 HP より）

【参考文献】

○中学校学習指導要領（平成 29 年告示）
○中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別活動編
○平成 29 年改訂中学校教育課程実践講座特別活動（ぎょうせい）
○東京都教育研究員報告書
○ワールド・カフェをやろう（日本経済新聞出版社）
○学級力向上プロジェクト（金子書房）

第三分科会　生徒会活動
「SDG s の達成に向けた学校教育の取組」

東京都大田区立大森第六中学校　教諭　茂谷　厚

１　主題設定の理由

本校は「夢と希望を与える課題解決能力」をテーマに研究を始め、その際にユネスコスクールに加盟した。その後、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、持続可能な社会の構築が切実な問題であることを改めて知ることになった。ユネスコスクールでは、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development、　以下 ESD）の視点に立った学習指導を中心に教育活動を展開している。そして、平成 27 年度 12 月に行われたユネスコスクール全国大会において、本校の長年の ESD の推進と授業改善の取り組み等が ESD 大賞文部科学大臣賞表彰を受賞した。国連で採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)を目指す教育を実践することが ESD 大賞である本校への期待であるという知見を得て、今後 SDG s を達成するための資質・能力を育成し、学校全体の活動に位置づけ、ESD を推進していくという方向性を得るに至った。本稿では学校と地域を舞台としてＳＤＧｓの達成に向けた諸活動について、生徒会活動を中心に紹介していく。

２　実践の概要

（１）環境とのつながり

本校は東京都大田区の住宅密集地に位置し、目の前には交通量の多い中原街道が通っている。都心部に位置しながらも、ＥＳＤの柱である環境教育を実践していくためには、地域社会に密着した教育活動を進めていくことが大切であると考えている。特に、本校が隣接する洗足池公園は地域の住民からも愛される歴史ある公園であり、大切な教育の場である。こうした環境の中で、平成２２年度より校内ボランティア団体として農援隊を結成し、農援隊を中心とした環境教育を開始した。本節では、農園隊が中心となって行っている①ホタル復活プロジェクト、②清掃ボランティア、③大岡山駅前花壇メンテナンス活動を中心に説明する。

①ホタル復活プロジェクト

隣接地である洗足池は、都内有数の風致地区で地域憩いの場として親しまれているが、昭和初期まで生息したホタルは、開発により絶滅し、平成初期には池にはアオコが発生して異臭を放った。そこで社団法人洗足風致協会が浄化槽を設置し、水質浄化を図った。さらに、本校に声をかけていただき、水生植物園を新たに造園し、そこにホタルの棲めるビオトープを作ることになった。

横浜ホタルの会の方からヘイケボタルの幼虫２００匹をいただき、校舎内で自然科学部を中心に飼育し、９か月たった６月に最終齢になった幼虫を放流した。自然科学部を始め農援

隊約７０名の生徒が水生植物の周りに並び、一斉に放流した様子は都会の中とは思えない光景であった。毎年放流を続けていくことで、自生を目指す「ホタル復活プロジェクト」は、地域でも楽しみにしていただける活動となり、平成２６年度の放流式ではわざわざ遠方から見えた方も含め、２００人以上の方が放流式に参加してくださった。７月にはその放流したホタルの光が確認できるが、この年初めて自生したと思われるホタルの光も確認できた。

ホタルは、きれいな空気、水、卵を産み付ける団粒構造を持つ土、などの条件がそろって初めて生息できる。農援隊が、水生植物園の造園から関わり、土づくり、水生植物の植え付けなどを行った。また、自然科学部も水質調査、樹木調査、ポスター作り、調査内容の発表といった形で協働している。

②清掃ボランティア

地域から愛される洗足池には、それだけ多くの人が足を運ぶ公園である、特に桜の季節などは多くのゴミが捨てられている。そこで、本校生徒会では毎週金曜日の朝７：４５～８：０５までの間に洗足池清掃を実施している。毎週の朝礼や給食時の放送などで、呼びかけを行い、来てくれた生徒には生徒手帳にスタンプを押し、多い人には生徒朝礼にて表彰を行うなどの工夫をしている。その結果、平均して１００人を超えるほどの生徒がボランティアで参加してくれている。ゴミのないときの活動が課題ではあるものの、穏やかな自然環境の中で生徒は互いにコミュニケーションをとりながら朝の時間を過ごしている。

また、敷地内に落葉広葉樹が約３０本ある本校では、秋になると落ち葉で校庭が埋まる。そのため、この季節には毎朝落ち葉掃き清掃も行っている。この活動では、感謝状を贈ることに加え、学期末には「落ち葉掃きおさめ会」と称して、集めた落ち葉で焼き芋を焼いて実施したところ、地域の小学生も親子で参加するような恒例行事の一つとなった。

集めた落ち葉は、校庭に作られたミミズコンポストに入れられ、腐葉土が作られる。この腐葉土は春になると、農園隊の手でゴーヤを育てるためのプランターに使われる。ゴーヤは各クラスのベランダで育てられグリーンカーテンとして省エネルギーに役立てられる。エネルギー循環型社会の実現を意識して活動をしているのである。作られたゴーヤは、栄養士の方のご協力で給食のメニューに出していただいた。このように楽しみながら活動を行っていくことも重要であると考えている。

③大岡山駅前花壇整備活動

農援隊では毎月１回、大岡山駅前で花壇整備活動を行っている。大岡山北口商店街、大田区、NPO法人花とみどりのまちづくりの方のご協力で、花の植え替え、草むしり、景観を重視した花壇づくり、ごみのない街を目指している。すべての活動

に参加する生徒もおり、商店街の方々との強い信頼関係を築いている。

（２）平和とのつながり

①平和を考える会

ア．　防空壕の発見

平成 23 年 7 月校庭改修工事の際、第二次世界大戦当時の防空壕が発見され、中に入って調査したところ、長さ 18.3m、高さ 1.9m、幅 0，9～2，3mの大きさであることが分かった。さらに当時のものと思われる茶碗、さら、ビン、やかんなども見つかった。この地域に住む人々の命をつないだ場所であったと思われる。本校ではユネスコスクールとして、ユネスコ憲章前文にある「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」の理念を受け継ぎ、過去にあった戦争を忘れずに語り継ぎ､多くの犠牲のもとに今の平和が作られたことを深く心に刻むことが､再び悲しい歴史を繰り返さないことにつながると考えた。世界の平和実現のために出来ることを考え、自分たちが平和な世界実現の担い手になる気持ちを育てるため、地域の強い要望もあり、大田区ではこの防空壕を保存することにした。保存工事完成に際し平成２６年１１月１２日に記念式典を行い、本校ではこの日を「六中平和の日」と定め、毎年全校生徒が集まり「平和を考える会」を行っている。防空壕保存式典では広島市長から原爆投下後、焦土の中で芽吹き人々に希望を与えたアオギリの種子から育てた「被ばくアオギリ２世」を送っていただき、この木を大切にしている。

イ．　「平和の歌」制作

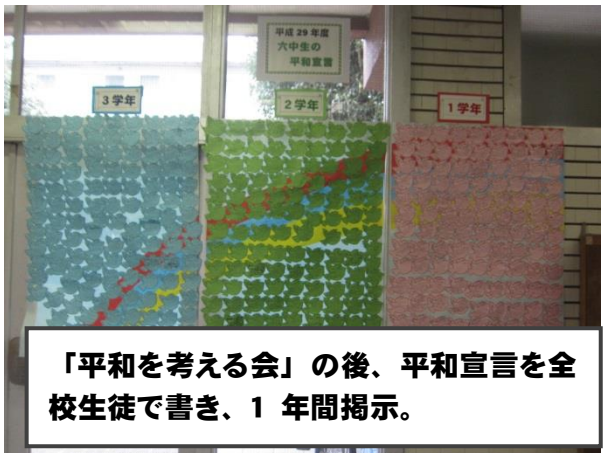
「平和の日」制定に続き、平成 27 年に「六中平和の歌」を作ることになった。夏休みに全校生徒が「平和」に関する詞を書き、2 学期に各クラスでの話し合いを通して 1～2 つの歌詞を選出。ユネスコ委員会（生徒会役員・専門委員会委員長・各学年の学級委員長で構成）で各クラスから選ばれた 18 の歌詞を検討して 6 つに絞り、さらに全校生徒による投票を経て、歌詞が決定した。そして音楽科教員が作曲をして「六中平和の歌」が完成した。

平成 29 年度卒業記念制作作品

ウ．　「平和かるた」を作ろう

「平和の歌」に引き続き、SDGｓ１６「平和と公正をすべての人に」の実現に向けて、平和とは何か、世界の平和のために自分たちは何を考え、何を取り組んでいくべきか考えるきっかけとして「平和かるた」の制作を行った。夏休み前、各クラスで「あ」から「わ」のかるたを分担して、１人１枚かるたの読み札を作成。２学期にユネスコ委員会で各クラスから持ち寄った札の中で１文字につき３つを投票で選んだ。選定基準は、覚えやすく親しみや

すいもの、印象深いもの、いつの時代にも読んでわかるもの、読み札を見てイメージしやすいものとした。選定後、各クラスで投票を行いユネスコ委員会で開票し、読み札を決定した。その後絵札を書く人を全校生徒から募集し読み札を分担した。平成２９年１１月１３日の「平和を考える会」において作品を披露し、読み札に込められた想いを製作者が発表した。



「平和を考える会」の後、平和宣言を全校生徒で書き、１ 年間掲示。

４４ 枚のかるたは生徒昇降口に掲示。

毎年の「平和を考える会」を継続していく。また「六中平和の歌」は新入生歓迎会、ユネスコ講演会、３年生を送る会、平和を考える会では必ず歌うようにする。「平和かるた」も今後は教室にも掲示ができるようにしていきたい。

②あったかぽかぽかプロジェクト

学校で誰かに言われて心が温かくなった言葉を紙に書き、六中のマスコットキャラクターである「ボラピー」が描かれたポスターに貼り付けていく。そして週に一度「The Best of あったかぽかぽか」と称し、生徒会役員がその週で最も心温まると感じた言

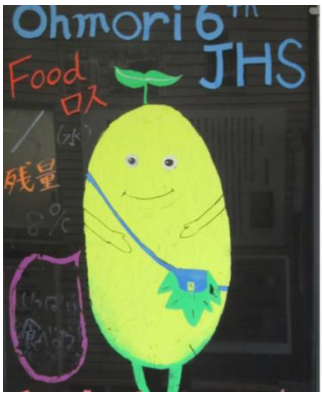
葉を選び、給食時の放送で全校生徒に伝えている。言われた人だけでなく、言った人、そして放送を聞いた人まで、皆が心温まることを願っている。世界平和の実現の第一歩として、また生徒自身が楽しく穏やかな学校生活を送るため、まずは身近な人を大切にしていこうという思いがこの活動に込められている。

（３）世界とのつながり
フードプロジェクト

本校は、平成 28 年度「ESD 重点校形成授業～輝け！サステイナブルスクール～」として、国際共同学習プロジェクト「ESD Food プロジェクト 2016」の活動に参加している。参加するにあたり、校内では特別委員会「国際協働委員会」を立ち上げ、周辺地域や国、世界の持続可能な社会を目指して、国内外の参加校とともに学び、地域と連携してプロジェクトを進めた。

具体的な活動としては、タイ、インド、インドネシア、ウガンダとのスカイプによる交流や、大田区の野菜を使った調理実習、給食の残食量を掲示し、学校全体で給食の残食を減らすよう啓発活動を行った。学校全体で環境問題への意識を高めるとともに、生徒が食品ロス削減のためにできることを考え実践する力を養うことを目的とし、学校給食の食品ロスを減らすための活動を始めた。保健給食委員会では平成 29 年度後期「LET'S　EAT　減らしていこうフードロス」、平成 30 年度前期「楽しく食べて残食を減らそう」を給食分野の活動テーマとして掲げ、活動を行っている。これまでの主な活動内容は、「毎日の取組」「毎月の取組」「世界との交流」である。

「毎日の取組」では生徒が食品ロスについて身近な問題として考えられるように、給食の残食量を毎日提示している。栄養士が毎日の給食について品目ごとに残食量について調べ、保健給食委員の生徒が計算し、毎朝１Ｆ玄関にある「ボラピー掲示板」に残食量を記入する。興味を持ってみてもらうために、ボラピーからのつぶやきも記入している。生徒が楽しみにしている給食の残食量をボラピーのつぶやきと共に毎日掲示をすることで、生徒だけではなく教職員も「食品ロス」に対する意識が高まった。



１Ｆ玄関にある「ボラピー掲示板」
前日の残食量とボラピーのつぶやきを掲示している

毎月の取組について本校では、毎月 19 日が「食育の日」である。そこで毎月「食育の日」の帰りの学活において、各学級の保健給食委員が食品ロスについて発表している。毎月各学級で発表を行うことで、学校全体の活動として給食の食品ロス削減の活動が定着した。内容は「食品ロスに関わること」「１ヶ月の給食の総残食量」「最も残食量が多かった日の献立と、それぞれの栄養素について」「食品ロス削減に向けた呼びかけ」である。

発表原稿について、活動当初は毎月栄養士と養護教諭が、生徒に伝えたいことを相談しな

がら作成していた。平成 30 年 6 月には、保健給食委員の生徒から「自分たちの意見も伝えていきたい」という意見が出たため、7 月の原稿から保健給食委員の生徒も一緒に原稿の内容を考え、生徒と栄養士、養護教諭で作成している。

平成 30 年 2 月には、国際協働プロジェクト校であるインドの学校とスカイプによるミーティングを実施した。その学校では古着の T シャツをスパイスなどで染色し、新しいデザインで古着をリメイクする取組について、本校は給食の残食量を減らすための取組について発表し、意見交換を行った。給食の残食量を減らすために、「孤児院に寄付をすればいいのではないか」「埋めて肥料にすればいいのではないか」など、日本では発想できない意見がでた。インドの学生は食品ロスを減らす活動にとても積極的で、様々な意見を聞くことができた。

交流後の生徒からは、「インドではまだ食べられるものを捨てるという考え方自体がないのだと思った」「私たちは給食の残食をどうしているのかと聞かれたとき、捨てるとしか答えられないのは悲しかった」「日本では食べ物を捨てることが普通になってしまっている」「食べ物を捨てている日本は少し恥でもあった」など、自分たちの食に対する意識の低さを感じたという意見が多かった。同時に「まずは自分の意識を変え、ゆっくりでもいいのでクラスのみんなの意識を変えていければいいなと思った」「給食の食べ残しを活用するのは難しいから、できるだけ多く食べようと呼びかける活動は続けていくべきだと思う」など、まず自分ができることから始めることが大切だと感じた生徒も多かった。また「国境を越えてつながりを持てたことがうれしかった」世界のフードロスの問題を解決していくことにつながると思った」という意見もあった。生徒が食品ロスを通じて、自分のこと、日本のこと、世界のことについて考えることができ、とてもよい体験となった。

３　成果と課題

本校のボランティア組織が発足した当初、学校の状況は現在とは大きく異なり、問題行動に対する生徒指導が頻発するような状況があった。本校のボランティア活動は、このような中で、教員と生徒が何か一緒に活動にあたることができないかという声から生まれたものである。はじめは校庭の落ち葉はきから始まった本校の活動は、ESD という指針、ＳＤＧｓというゴールを持つことによって、本稿で述べたような様々な広がりをもつことができた。文部科学省の平成 30 年度全国学力・学習状況調査における生徒質問回答において生徒は「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。」、「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか。」という質問に対し 1.「よくあてはまる」、2.「あてはまる」、3.「あまりあてはまらない」、4.「まったくあてはまらない」の 4 項目から回答を行い以下のような結果が得られた。

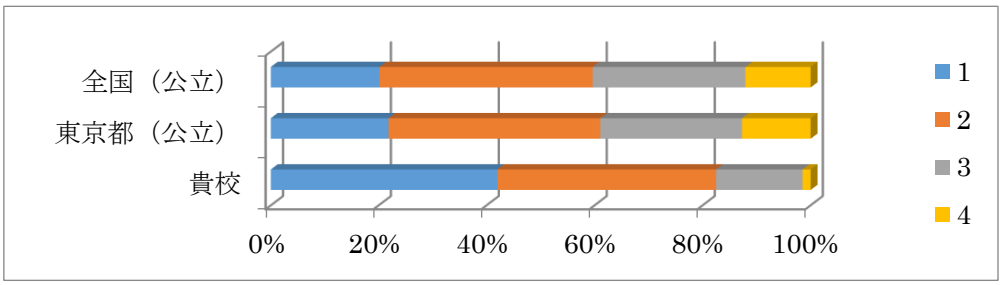


表１　地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

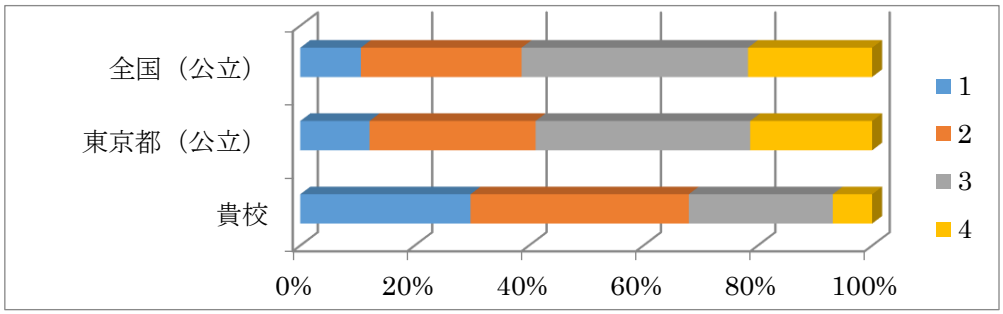


表 2　地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがありますか。

全国や東京都の平均値と比較しても本校の生徒は地域や社会への関心が高く、また地域や社会のために何をすべきか考えている生徒が多いことが分かった。また毎年本校で実施している ESD アンケートでは表 3 のような結果が得られた。

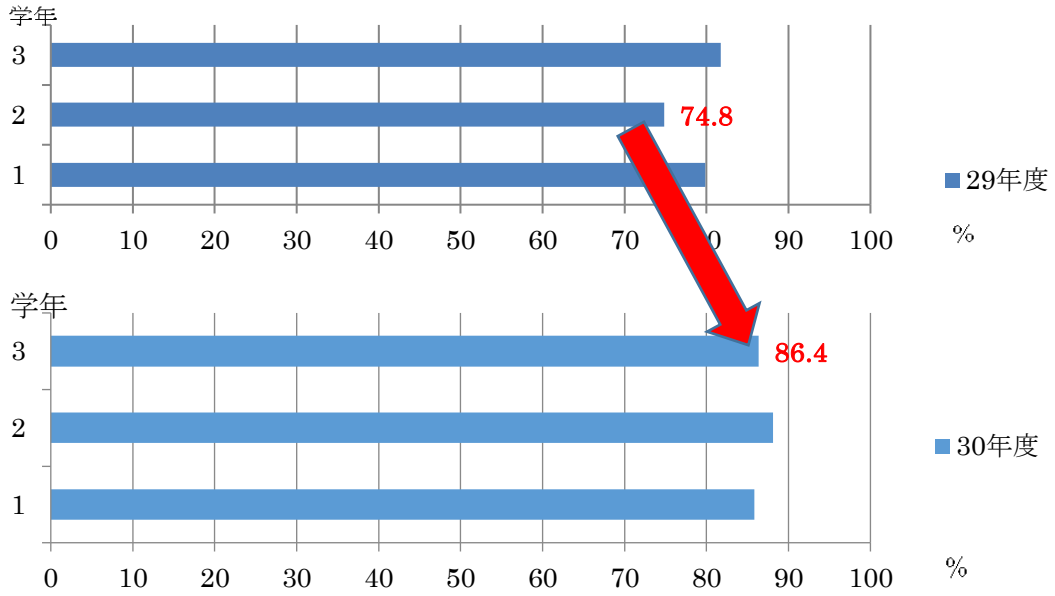


表 3　集団における自分の役割を理解し、物事に主体的に参加することができる。

昨年度より、集団における自分の役割を自覚し、主体的に活動に取り組むことができる生徒が増えていることがわかる。このように学校だけでなく地域や世界に活動の場を広げることが、生徒の自己有用感やより積極的に社会や世界に関わろうとする内発的動機付けにつながっているということが考えられる。特に月に一度開かれる生徒会役員・各専門委員長・農援隊長で構成されるユネスコ委員会ではお互いに意見を述べ、自分の考えをしっかりと持ち、批判的思考力を養い、多面的・総合的な考え方を身につけていると考えられる。これまでに述べたように、生徒はさまざまな活動に取り組んできた。校内でのボランティア活動に始まり、地域、そして世界へと活動の場を広げていった。SDGs の達成という大きな目標を共有することによって、地域や世界の人々とつながることができた。今後も現状維持に留まることなく、活動を持続発展させるとともに、より広くの生徒が活動に参加できるよう教育体制を整えていきたい。

４　研究のまとめ

ユネスコスクールに加盟して８年間､活動を継続させる中で､地域とのつながりができ、地域が「屋根のない学校」として位置付けられた。そして、その中で生徒は、地域の方々の「ありがとう」という言葉や温かさにふれ、自己有用感を高めていった。そして「もっと誰かの役に立ちたい」という思いとともに、学校から地域へ、地域から世界へと目を向けるようになり、生徒は活動の幅を広げていった。現在、本校は落ち着いた教育環境の中で、生徒は授業、行事、そして特別活動の中で意欲的に活動し、学ぶことができている。それは、ＥＳＤに関する様々な活動を通して学ぶことへの意義を感じとっているからだと私は考える。それぞれの学校と地域の特性を生かした多様な取り組みが全国に広がればと願っている。

第四分科会　学校行事

学校行事における指導と評価の一体化
～ルーブリック評価を取り入れた事前・事後指導を通して～

東京都国分寺市立第一中学校
校長　　後藤正彦
教諭　　小松　咲

１．主題設定の理由

本校では、「健康安全・体育的行事（運動会）」、「文化的行事（合唱コンクール）」が二大行事と呼ばれている。さらに「旅行・集団宿泊的行事（移動教室や修学旅行）」が、生徒に大きな思い出や体験を遺すことができていると考えている。実際、生徒のアンケートでも「思い出に残った」「楽しかった」等の感想が多数あり、これらが与える生徒の感動はとても大きい。

しかし、一方で学校行事にかける時間は必要最小限となり、生徒の取組みも以前ほど活発にさせる余裕もなく、本当に自主性をはじめとする資質・能力が丁寧に育成できていない現状を感じる。また、行事の教育的効果の大きさは、体感として生徒、教員に残っているが、その場限りの印象もあり、本当に教育的効果を発揮させ、定着させる手段を必要と感じた。

そこで、本研究ではパフォーマンス評価の一つであるルーブリック評価を２年次のスキー移動教室、３年次の関西への修学旅行に取り入れ、焦点化を図ることでその育成を進めようとした。

本校の取組み

これまでは…生徒が作成したアンケート（意図的でない振り返り）を実施。

平成２９年度…　現３年生がスキー移動教室でルーブリック評価を初めて実施。

平成３０年度…　全学年が旅行・集団宿泊的行事（１年生：都内遠足、２年生：スキー移動教室、３年生：修学旅行）で、ルーブリック評価形式を実施することとした。

２．研究のねらい

①　生徒の資質・能力の育成

②　指導をする教員の意識の焦点化

３．研究の内容

ルーブリックは、評価指標であると同時に活動の「めあて」でもある。教員側の作成した実施要項の目標と、生徒が作成した行事の目標それぞれを分析し、生徒実行委員を中心にルーブリックづくりを進める。

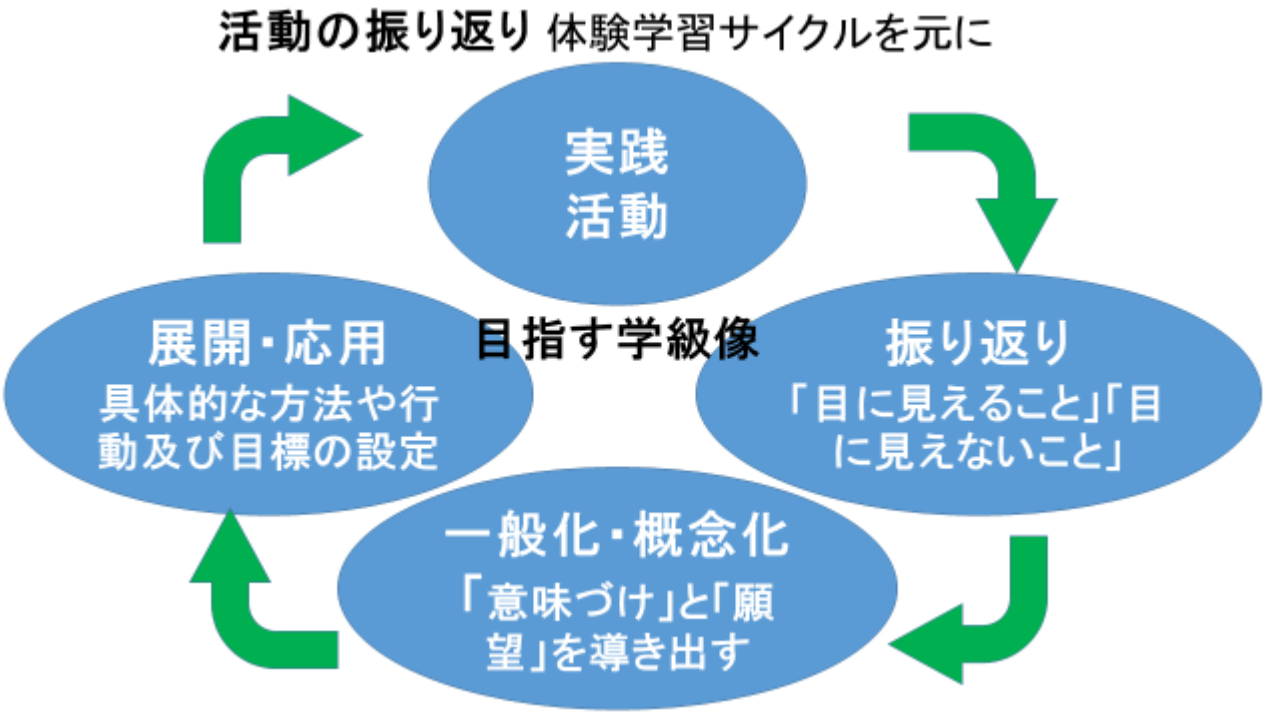
ルーブリックを事前に生徒全員に周知することで、行事を通してどのような成長を目指すべきかを共通理解させるとともに、現段階での自分を振り返らせる。

単なる感想を記述させるアンケートに代えて、事後にも実施することにより、自らの成長や行事の充実度を確認させる。特に事前と事後の個人の成長や集団の変容に注目することで、以後の学校生活への意識付けや課題の明確化への糧としたい。

①　研究の考え方

振返りについては、アンケートや感想文のいった当たり前のものから、ＹＷＴ（M)、ＫＰＴ、ＬＡＭＤＡといったものまで多様な手法がある。その中で最も有名なのがＰＤＣＡであると思われる。ＰＬＡＮ→ＤＯ→ＣＨＥＣＫ→ＡＣＴＩＯＮ　という一連の循環の中で、改善を図っ

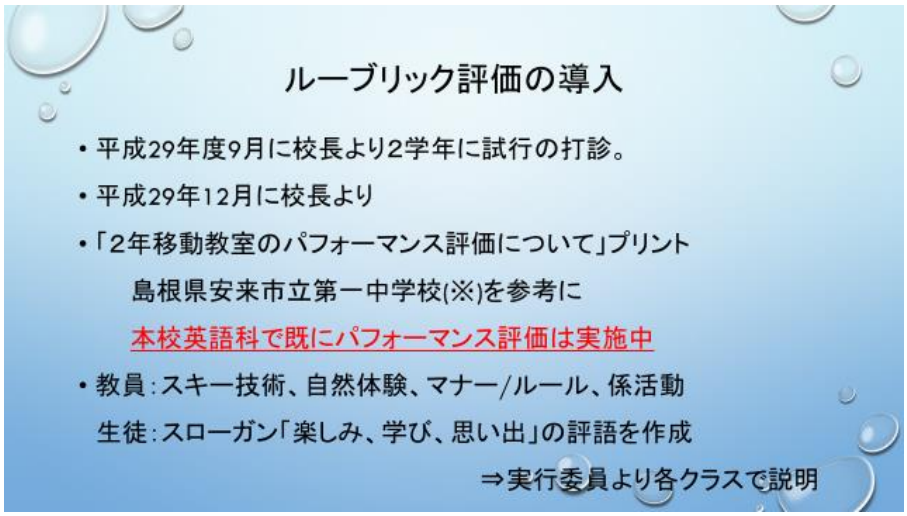
ていく手法であり、既に学校行事にとどまらず広く活用されている学校が多い。そのような振り返りの手法の中で、本校が参考にさせていただいたのが、下図にある玉川大学の川本和孝准教授の「活動の振り返り　体験学習サイクルを元に」の「目指す学級像」実践活動のサイクル図である。



この体験学習サイクルを参考に、**「振り返り」の際の「焦点化」**という視点を明確にしようとしたのが本研究である。

※ＹＷＴ（Ｍ）…　「やったこと」、「わかったこと」、「次にやること」、「メリット」
ＫＰＴ…　「Ｋｅｅｐ」、「Ｐｒｏｂｌｅｍ」、「Ｔｒｙ」
ＬＡＭＤＡ…「Ｌｏｏｋ」,「Ａｓｋ」、「Ｍｏｄｅｌ」、「Ｄｉｓｃｕｓｓ」、「Ａｃｔ」

また、ルーブリック作成の際の参考としたのは、本校英語科で既に取り組んできたルーブリック評価と島根県安来市立第一中学校の生徒会によるルーブリックづくりの実践である。



② ２年次移動教室の様子とルーブリック評価の結果

日　時：　平成３０年１月２１日（日）～２３日（火）　２泊３日

目的地：　長野県飯山市（斑尾高原スキー場）

行　程：

【１日目】	【２日目】	【３日目】
市役所駐車場	宿舎	宿舎
↓　バス	↓	↓
宿舎	スキー講習（２時間）	スキー講習（２時間）
↓	↓	↓
スキー講習（２時間）	宿舎（昼食）	宿舎（昼食）
↓	↓	↓　バス
宿舎（豚汁）	スキー講習（２時間）	第五小学校付近　解散
	↓	※大雪で帰路は経路変更
	宿舎（お汁粉）	

ルーブリックの内容と結果

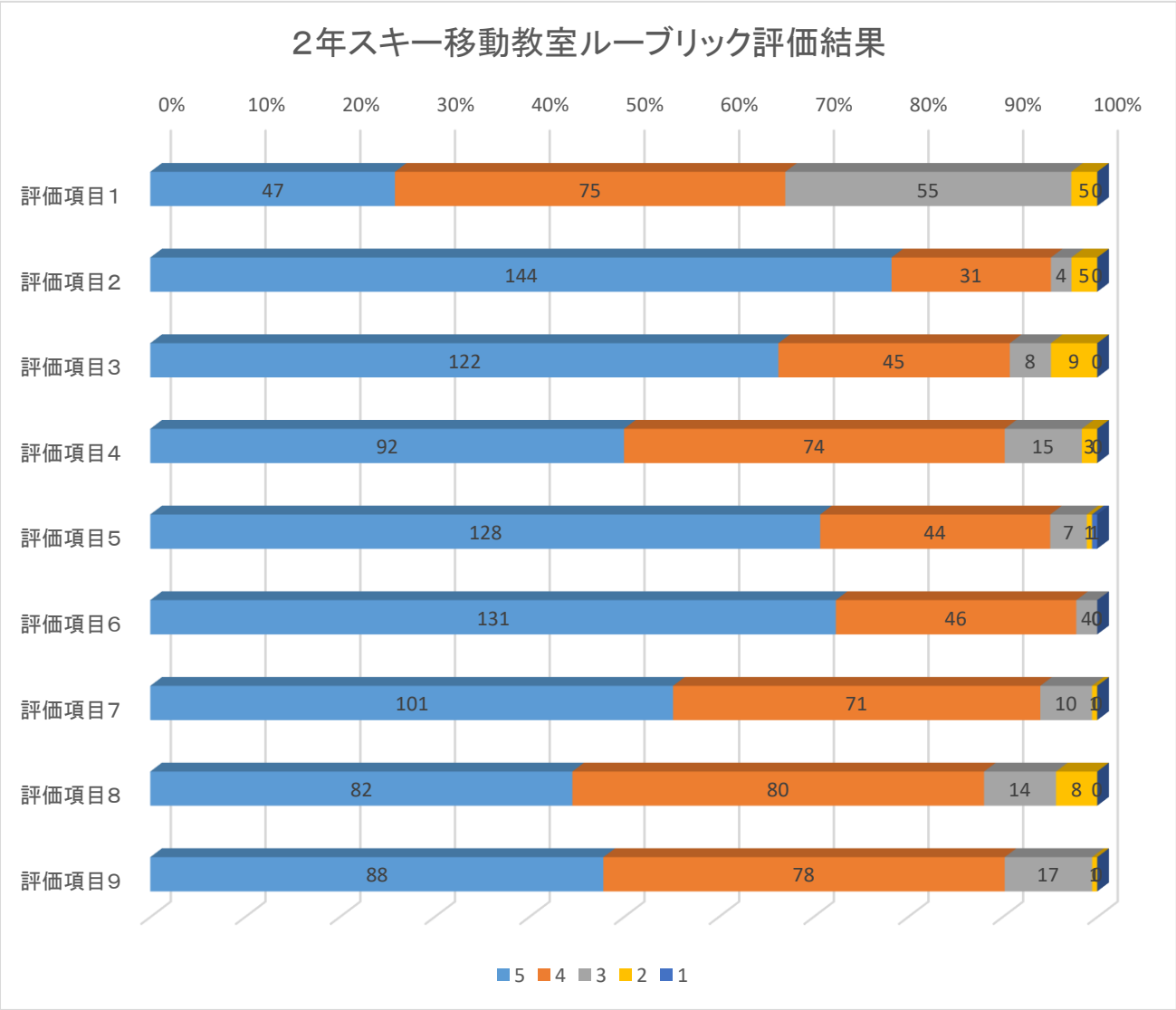
＜参考＞　ルーブリック評価表　　※帰校後に自己評価します。

①　自分についての自己評価

評価項目	1	2	3	4	5
スキー技術	スキー靴をはき、スキー板をつけ、雪上に立つことができる	斜面を自分の力で登ることができる。板をハの字の形にして斜面を滑ることができる。(ボーゲン)	板をハの字の形にして斜面を滑り、ターンをすることができる。(プルークボーゲン)	板をそろえて斜面を斜めに滑り、ハの字の形にしてターンをすることができる。(シュテムターン)	板をそろえて斜面を斜めに滑り、板をそろえたままターンをすることができる。(パラレルターン)
自然体験	宿舎の外に出ることができなかった。	自然を体験したが、あまりすばらしさは感じられなかった。	自然を体験し、そのすばらしさが少し分かった。	自然を体験し、そのすばらしさが分かった。	自然を体験し、そのすばらしさがよく分かった。また行きたい。
マナー・ルール	集団生活のマナーもルールも守ることができなかった。	集団生活のマナー、ルールどちらかを守ることができなかった。	集団生活のマナーやルールを守ろうと努力した。	集団生活のマナーやルールをほぼ守ることができた。	集団生活のマナーやルールをきちんと守ることができた。
係活動	きちんと仕事ができなかった。	きちんと仕事ができないことがあった。	なるべく積極的に活動しようと努力した。	責任感をもって積極的に活動した。	自分から必要なことを考えて積極的に活動した。
スローガン「楽しみ」	「３日間全部楽しめた」を１００％としたときの「楽しみ」の割合				
	３０％未満	３０％以上	５０％以上	８０％以上	９０％以上
スローガン「学び」	①食事中のマナー、②持ちもののルール、③みんなとの助け合い、④相手のことを考えた行動　のうち				
	ひとつもできなかった	１項目はできた	２項目できた	３項目できた	全部できた
スローガン「思い出」	思い出にならなかった	あまり思い出に残らなかった	友だちと楽しく過ごすことはできた	中学校生活の思い出になった。また行きたい。	一生の思い出だと思える。このメンバーでまた行きたい。

② 学年・クラスについての評価

評価項目	1	2	3	4	5
マナー・ルール	集団生活のマナーもルールも守ることができなかった。	集団生活のマナー、ルールどちらかを守ることができなかった。	集団生活のマナーやルールを守ろうと努力した。	集団生活のマナーやルールをほぼ守ることができた。	集団生活のマナーやルールをきちんと守ることができた。
スローガン	達成できない部分が多かった。	達成できない部分があった。	まあまあ達成できた。	多くの部分で達成できた。	全体的に大達成できた。



③　３年次修学旅行の様子とルーブリック評価の結果

日　時：　平成３０年９月１９日（火）～２１日（金）　２泊３日

目的地：　関西方面（奈良・京都）

行　程：

【１日目】	【２日目】	【３日目】
ＪＲ西国分寺駅でチェック。 ↓　班行動で移動（ＪＲ中央線） ＪＲ東京駅で出発式 ↓　新幹線（修学旅行専用列車） ＪＲ新大阪 ↓　バス 法隆寺見学（クラス行動） 奈良公園見学（班行動） ↓　バス 宿舎（京都市内）	宿舎 ↓ 京都市内班行動 ↓ 宿舎 ↓　バス 体験学習（護王神社） ↓　バス 宿舎	宿舎 ↓ 京都市内タクシー班行動 ↓ ＪＲ京都駅で解散式 ↓　新幹線（修学旅行専用列車） ＪＲ東京駅 ↓　班行動で移動（ＪＲ中央線） ＪＲ西国分寺駅でチェック後解散

	1	2	3	4	5	未回答
文化遺産に接する	奈良・京都の文化遺産について、事前事後ともにあまり興味を持つことができなかった。	奈良・京都の文化遺産について、少し興味を持てた。	奈良・京都の文化遺産について、個人の興味をもち、課題に対する関心を深められた。	奈良・京都の文化遺産について興味を持ち、現地で意欲的に調べることができた。	奈良・京都の文化遺産について興味を持ち、帰校後にさらに深く調べたいと思えた。	
事前	0 人/0%	40/19.9	70/34.8	38/18.9	40/19.9	13/6.5
事後	1/0.5	0/0	33/16.4	83/41.3	70/34.8	14/7.0
理解を深める	日本の歴史や文化伝統ついて、事前事後ともにあまり理解を深めることができなかった。	日本の歴史や文化伝統について、事前学習よりは理解を深めることができた。	日本の歴史や文化伝統について興味や課題に合わせて見学し、理解を深めることができた。	日本の歴史や文化伝統について理解を深め、さらに調べる意欲が湧いた。	日本の歴史や文化伝統について理解を深め、国分寺との相違点等について考えることができた。	
事前	2/0.9	54/26.9	49/24.4	50/24.9	32/15.9	14/7.0
事後	0/0	1/0.5	33/16.4	90/44.8	63/31.3	14/7.0
①社会のマナー ②集団生活のマナー ③社会のルール ④集団生活のルール ⑤思いやりのある行動	5つの項目で〇が1つ以下	5つの項目で〇が2つ	5つの項目で〇が3つ	5つの項目で〇が4つ	5つの項目で〇が5つ	
事前	5/2.3	8/4.0	37/18.4	50/24.9	75/37.3	26/13.1
事後	1/0.5	0/0	9/4.5	66/32.8	111/55.2	14/7.0
係活動	きちんと活動ができなかった。	きちんと活動ができないことがあった。	なるべく積極的に活動しようと努力した。	責任感をもって積極的に活動した。	自分から必要なことを考えて積極的に活動した。	
事前	2/0.9	3/1.5	52/25.9	65/32.3	56/27.9	23/11.5
事後	1/0.5	3/1.5	14/7.0	74/36.8	94/46.8	15/7.4

スローガン 「絆」 ①絆を感じた場面があった ②友人の新たな発見があった ③友人と一緒にいて楽しいことがあった ④友人にしてもらって嬉しいことがあった ⑤友人にしてあげて喜ばれたことがあった	5つの項目で 〇が1つ以下	5つの項目で 〇が2つ	5つの項目で 〇が3つ	5つの項目で 〇が4つ	5つの項目で 〇が5つ	
事前	7/3.5	17/8.5	59/29.4	45/22.4	43/21.4	30/14.8
事後	3/1.5	6/3.0	25/12.4	71/35.3	82/40.8	14/7.0
スローガン 「学び」 ①時間のけじめ ②不要物持ってこない ③身の回りの整理整頓 ④話の聞き方 ⑤自主的な行動	5つの項目で 〇が1つ以下	5つの項目で 〇が2つ	5つの項目で 〇が3つ	5つの項目で 〇が4つ	5つの項目で 〇が5つ	
事前	4/2.0	8/4.0	37/18.4	63/31.3	62/30.8	27/13.5
事後	1/0.5	1/0.5	19/9.5	63/31.3	103/51.2	14/7.0
スローガン 「思い出」 印象に残る見学場所や人に伝えたくなるエピソード	左についての内容が 1つ思い浮かぶ	左についての内容が 2つ思い浮かぶ	左についての内容が 3つ思い浮かぶ	左についての 内容が 4つ思い浮かぶ	左についての内容が5つ以上思い浮かぶ	
事前	13/6.5	24/11.9	25/12.4	23/11.4	31/15.4	85/42.4
事後	4/2.0	4/2.0	33/16.4	43/21.4	103/51.2	14/7.0

※人数（２０１人中）／%　　※欠席者は未回答数に含む

４．成果

① 抽象的であったり、感想にとどまることが多かった行事実施後のアンケートを、事前指導段階から実行委員にルーブリックの評語を検討させることで、具体的な活動をイメージさせることができた。

② 参加生徒に対しても、個々が現状と行事を通して資質・能力だけでなくそれらを活かす姿勢や行動につながる取組への意識付けをすることができた。

５．課題

今回の発表では、実施要項の目標と生徒実行委員会の目標をもとにルーブリックを作成したが、育てたい資質・能力をもとに現状の振り返りと共に実施することが望ましいと感じている。

また、その結果を個人、集団共にフィードバックする具体的手段についてもこれからである。

６．研究のまとめ

「為すことによって学ぶ」という特別活動の特質を踏まえつつ実践をしていても、そして感覚的にその教育効果の大きさを実感しても、折角の効果を効率的に活用できずに「やりっぱなし」に陥りがちな現状があり、それを改善すべく、活動の振り返り（リフレクション）に注目した実践を進めた。

前述の「体験学習サイクル」を元に生徒個々が自らの課題やめあてを明確にし、行事に取組み、成果を確認するというサイクルを築くことへのきっかけを見つけられたと感じている。新学習指導要領では、資質・能力という視点から教育活動を再編成することが求められている。それは教科だけの話ではなく、教育課程全体を通して行うもの、つまり領域も積極的にカリキュラムマネジメントの中に入っていかなければならない。これまでも様々な体験を通して、実感をともなった学習を進めてこられたのが特別活動であり、学校行事であったと考える。その中でどのような資質・能力を育めるのか、また育んでいかなければならないかを改めて考えることができた。その資質・能力をさらに体験を通した活動を通して育むためには、応用や還元の場としての学校行事を、リフレクションを中心に体験学習サイクルで考えることが重要であると再認識している。

資　料

★全日本中学校特別活動研究大会の歩み

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会　長 実行委員長
第１回	昭和47. 6.8（木） 9（金）	東京都 （板橋区）	「望ましい人間関係をめざして、新しい特別活動をどのように進めたらよいか」 ～その計画・運営・指導の在り方を研究する。～ （板橋区立区民会館・産業文化会館、板橋区立上板橋第一中学校　他５会場）	須田　重雄 須田　重雄
第２回	昭和48.11.8（木） 9（金）	広島県 （福山市）	「ひとりひとりをたいせつにする特別活動はいかにあるべきか 」～特にクラブ活動をとりまく課題を明らかにし、その計画・運営・指導のあり方をさぐる～ （福山市民会館、福山市立城北中学校、他２会場）	須田　重雄 近藤　通珍
第３回	昭和49.6.6（木） 7（金）	東京都 （中野区）	「これからの特別活動の充実をどのように進めるか」 （中野区立公会堂、中野区立中央中学校）	菊池　四郎 菊池　四郎
第４回	昭和50.6.20（金） 21（土）	東京都 （目黒区）	「生きがいを育てる特別活動の指導をどのように進めるか」 （東京都立教育研究所）	菊池　四郎 菊池　四郎
第５回	昭和51.6.24（木） 25（金）	埼玉県 （浦和市）	「これからの学校教育の中学校における特別活動」 （浦和市民会館、桶川中学校、他２会場）	菊池　四郎 加藤　雅信
第６回	昭和52.6.24（金） 25（土）	岡山県 （岡山市）	「ゆとりある教育の中の特別活動」～教師と生徒のふれ合いを求めて～ （岡山市民文化ホール、中央公民館）	菊池　四郎 串田　吉雄
第７回	昭和53.6.2（金） 3（土）	茨城県 （下妻市）	「いきがいと充実感あふれる中学生を育てる特別活動」 （下妻市立下妻中学校）	菊池　四郎 広瀬　一徳
第８回	昭和54.8.3（金） 4（土）	香川県 （高松市）	「自ら考え正しく判断・行動できる生徒の育成をめざす特別活動」 （高松市民会館、他４会場）	岩亀　幸三郎 谷本　義男
第９回	昭和55.6.20（金） 21（土）	東京都 （中野区）	「新教育課程の趣旨を生かす特別活動」 （中野区立公会堂、東京都立教育研究所）	田代　拳 神戸　恭三郎
第10回	昭和56.8.7（金） 8（土）	兵庫県 （神戸市）	「ゆたかな人間性の育成を目ざす新しい特別活動」～ゆとりと充実の実践課題～ （神戸文化ホール、他８会場	田代　拳 河野　広雄
第11回	昭和57.8.6（金） 7（土）	千葉県 （千葉市）	「ゆたかな人間性の育成をめざす特別活動」～ゆとりと充実の創造と実践～ （千葉県教育会館、他５会場）	田代　拳 菅崎　栄
第12回	昭和58.9.29（木） 30（金）	福島県 （福島市）	「生徒の自主的・自治的活動を定着させる特別活動」 ～一人歩きのできる生徒の育成をめざして～ （福島市立福島第四中学校、大鳥中学校、吾妻中学校、福島市民センター）	田代　拳 橋谷田千代士
第13回	昭和59.8.9（木） 10（金）	静岡県 （静岡市）	「一人ひとりに充実感を生み出す特別活動」 （静岡市民文化会館、他５会場）	神戸　恭三郎 土屋　伊佐雄 加藤　清
第14回	昭和60.8.7（水） 8（木）	東京都 （渋谷区）	「生徒の自己教育力を高める特別活動」 （国立オリンピック記念青少年総合センター）	横尾　武成 両角　敏彦 原口　盛次
第15回	昭和61.11.13（木） 14（金）	東京都 （中野区）	「生徒の学校生活を活性化する特別活動」 （中野文化センター、豊島区立高田中学校、中野区勤労福祉会館）	横尾　武成 原口　盛次
第16回	昭和62.8.7（金） 8（土）	千葉県 （千葉市）	「生徒の自主性を高める特別活動」 （千葉県教育会館、千葉県自治会館、公立学校共済組合青雲閣）	原口　盛次 細谷　竹松
第17回	昭和63.8.9（火） 10（水）	徳島県 （鳴門市）	「生徒の創造を生かし、一人ひとりに充実感をもたせる特別活動」 （鳴門市文化会館、老人福祉センター、青少年育成センター、地場産業センター）	原口　盛次 廣岡　政吉
第18回	平成元.8.8（火） 9（水）	栃木県 （藤原町）	「一人一人を伸ばす特別活動」～より望ましい集団活動を通して～ （鬼怒川温泉あさやホテル）	槇　常三 武井　岩夫
第19回	平成2.10.18（木） 19（金）	新潟県 （両津市）	「主体的な集団活動をうながす特別活動のあり方」 （佐渡島開発総合センター、両津市立東中学校、南中学校）	槇　常三 渡辺　喜信
第20回	平成3.8.8（木） 9（金）	群馬県 （伊香保町）	「望ましい集団活動を通して、一人一人の生き方を育てる特別活動」 （伊香保温泉ホテル天坊）	鶴巻　武 松下　熙雄
第21回	平成4.10.30（木） 31（金）	埼玉県 （北本市）	「豊かな人間性を育む特別活動」～多様な体験活動の実践を通して～ （北本市文化センター、北本市立北本中学校）	鶴巻　武 布目　雅之
第22回	平成5.8.6（金） 7（土）	鹿児島県 （鹿児島市）	「望ましい集団活動を通して、主体的に生きる力を培う特別活動」 （鹿児島市民文化ホール、鹿児島サンロイヤルホテル）	山田　忠行 竹原　宏
第23回	平成6.8.18（木） 19（金）	和歌山県 （和歌山市）	「たくましい実践力を育てる特別活動」～人間としての生き方を求めて～ （和歌山県民文化会館、紀の国会館）	山田　忠行 久保　陽右
第24回	平成7.8.7（月） 8（火）	東京都 （中野区）	「たくましく生きる意欲を育てる特別活動」 （なかのＺＥＲＯ）	山田　忠行 小松　博則

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会長 実行委員長
第25回	平成8.8.2（金） 3（土）	青森県 （弘前市）	「豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動」 （弘前市民会館、弘前文化センター）	小松　博則 鈴木　弘
第26回	平成9.8.7（木） 8（金）	神奈川県 （横浜市）	「豊かな人間性を培い、主体的に生きる力を育てる特別活動」 （横浜市立横浜商業高等学校、パシフィコ横浜）	平松　隆 名塚　義明
第27回	平成10.8.7（金） 8（土）	広島県 （広島市）	「豊かな人間性をつちかい、生きる力をはぐくむ特別活動」 （広島県民文化センター、鯉城会館、広島国際会議場）	平松　隆 澤村　晴視
第28回	平成11.8.19（木） 20（金）	栃木県 （藤原町）	「生きる力をはぐくむ　あらたな特別活動を求めて」 （鬼怒川温泉グリーンパレス）	佐藤　真人 須藤　稔
第29回	平成12.8.3（木） 4（金）	熊本県 （熊本市）	「２１世紀を生きる力を育てる特別活動」 （メルパルクＫＵＭＡＭＯＴＯ）	佐藤　真人 坂井　豊水
第30回	平成13.8.2（木） 3（金）	東京都 （中野区）	「２１世紀を拓く特別活動」　～共に考え、共に歩む～ （なかのＺＥＲＯ）	佐藤　真人 保積　芳美
第31回	平成14.8.7（水）	鹿児島県 （鹿児島市）	「豊かなかかわり合いを通して、共に生きる力を育てる特別活動」 （ホテルウエルビューかごしま）	保積　芳美 山下　雄平
第32回	平成15.7.30（木） 31（金）	愛媛県 （松山市）	「共生と創造を目指す特別活動の研究」 （松山市立子規記念博物館、にぎたつ会館、メルパルクＭＡＴＳＵＹＡＭＡ）	保積　芳美 芝　英徳
第33回	平成16.10.15（金） 16（土）	徳島県 （阿南市）	「望ましい集団活動を通して、生きる力を育てる特別活動」 （阿南中学校、阿南市文化会館）	保積　芳美 萩原　宏昭
第34回	平成17.8.3（木） 4（金）	東京都 （中野区）	「望ましい集団活動の活性化を通して、生きる力を育てる特別活動」 ～社会的な資質の育成を中心にして～ （中野区教育センター、中野区立中央中学校）	保積　芳美 加々美　肇
第35回	平成18.10.27（金） 28（土）	青森県 （弘前市）	「出会おう新しい自分、生きよう自分らしく」 ～豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動～ （弘前市立東中学校、弘前市文化センター）	加々美　肇 山科　實
第36回	平成19.7.31（火）	東京都 （中野区）	「豊かな人間関係づくりを通して、生きる力を育む特別活動」 ～学校と家庭・地域を結ぶ特別活動～　（なかのＺＥＲＯ）	加々美　肇 坂井　晃
第37回	平成20.8.6（水）	群馬県 （前橋市）	「未来を拓く人間力を培う特別活動」 ～望ましい集団活動・豊かな人間関係づくりを通して～　（前橋テルサ）	加々美　肇 尾身　正治
第38回	平成21.10.16（金） 17（土）	東京都 （江東区）	「望ましい人間関係を形成する新たな特別活動の展開」 （江東区立深川第八中学校、江東区教育センター）	坂井　晃 美谷島　正義
第39回	平成22.10. 29（金）	青森県 （五所川原市）	「触れ合いの中で発見しよう　輝く自分　響き合う仲間」 ～新しい時代を切り拓く特別活動～　（五所川原市立五所川原第一中学校）	坂井　晃 永澤　正己
第40回	平成24.1.28（土）	東京都 （文京区）	「助け合い　励まし合う　仲間づくり」 ～望ましい人間関係の形成と集団や社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～ （東京都教職員研修センター）	佐々木辰彦（代行） 松本　康夫
第41回	平成24.12.1（土）	東京都 （文京区）	「認め合い　高め合う　仲間づくり」 ～社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～　（東京都教職員研修センター）	佐々木　辰彦 勝亦　章行
第42回	平成25.8.8（木）	大分県 （別府市）	「よりよき人間関係を築き、望ましい集団活動を通して生きる力をはぐくむ特別活動」 ～話合い活動の充実による自治能力の育成～　（立命館アジア太平洋大学）	勝亦　章行 児玉　徳信
第43回	平成26.10.30（木） 31（金）	愛媛県 （松山市）	「絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造」 ～より良い生活や人間関係を築く集団活動の実践を通して～　（松山市立桑原中学校）	勝亦　章行 武田　峰紀
第44回	平成27.10.2（金） 3（土）	神奈川県 （横須賀市）	「自主的、実践的な態度と想像力を育む特別活動を目指して」 ～よりよい人間関係を育成する中で～ （ヨコスカベイサイドポケット産業交流プラザ・総合福祉会館）	松本　康夫 守谷　賢二
第45回	平成28.11.19（土）	東京都 （墨田区）	「認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり」 ～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～ （墨田区立本所中学校）	松本　康夫 長谷川　晋也
第46回	平成29.8.10（木）	佐賀県 （佐賀市）	「よりよい人間関係を築き、主体的に実践する力を育む特別活動の創造」 ～協働的な学びの基礎を形成する集団活動の実践活動を通して～	中野　義文 澤　成樹
第47回	平成30.11.10（土）	東京都 （練馬区）	「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」 ～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～	上岡　祥邦 青木　由美子

全日本中学校特別活動研究会　会則

第１章　　総　則

第１条　本会は、全日本中学校特別活動研究会と称し、事務局は会長校内におく。

第２条　本会は、全国の特別活動研究者をもって組織し、特別活動に関する重要問題を取り上げて協議し、わが国中学校特別活動教育推進と発展に寄与することを目的とする。

第３条　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

一　全日本中学校特別活動研究大会の開催

二　各都道府県における中学校特別活動研究協議会・研究会・講習会・座談会等の主催協力・連絡

三　各都道府県の中学校特別活動研究団体との交流・連絡

四　機関誌・機関新聞・紀要等の刊行

五　その他関係機関との連携及び必要な事業

第４条　本会の会員は次のものによって構成する。

一　全国の都道府県の特別活動研究会の会員

二　その他、本会の主旨に賛同する者

第２章　　役　員

第５条　本会は次の役員をおく。

一　会　　長　　１名　　二　副会長　　若干名　　三　事務局長　　１名

四　全国理事

第６条　会長は理事会で選出し、任期は９条によるものとする。

第７条　理事は、参加研究団体の中からの推薦により会員の者から選出する。

副会長及び事務局長は、理事の中からまたは理事の推薦により会長が委嘱する。

第８条　役員の職務は、次の通りとする。

一　会長は本会を代表し、会務を総括する。

二　副会長は、会長を補佐し会長事故ある時は、その職務を代行する。

三　事務局長は、事務局を組織し、常時の会務運営を担当する。

四　理事は、理事会を構成し本会の企画・運営のための原案作成及び会務の審議決定をする。

第９条　本会の役員の任期は一年として、再任をさまたげない。補欠によって就任した役員の任期は前任者の残留任期とする。

第 10 条　本会は、名誉会長・顧問・参与をおくことができる。名誉会長・顧問・参与は本会の重要な会議に出席して意見を述べることができる。

第3章　　執　行　機　関

第 11 条　本会の会務を統括し遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長のもとに、事務局員若干名をおく。

第 12 条　事務局には、次の部をおく。

一　庶務部　　二　会計部

各部には、部長・副部長ならびに部員若干名をおく。

第 13 条　各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

第4章　　会　議

第 14 条　理事会は、毎年一回開催し、会の重要事項について報告・審議する。その他の会議は必要に応じて開くものとする。会議はすべて会長がこれを招集する。

第5章　　会　計

第 15 条　本会の会費は、次の収入をもってこれにあてる。

一　会費　　二　寄付金　　三　助成金　　四　その他の収入

会費は地区分担金費（都道府県年２０，０００円）とする。会費は、理事会の議決で決める。

第 16 条　本会は、特に必要ある場合臨時会費を徴収することができる。

第 17 条　本会の予算及び決算は、予算書及び決算書を作成し、理事会で報告、審議及び承認を得るものとする。

第 18 条　本会の年度は、４月１目に始まり、翌年の３月３１日に終わる。

付　　則

1　本会の会則の変更は、理事会の議決によるものとする。

2　本会の運営については、細則をもうけることができる。

3　本会の会則は昭和 47 年 6 月 8 日から施行するものとする。

昭和 48 年 11 月　8 日改正

昭和 58 年　9 月 29 日改正

平成 14 年　7 月 30 日改正

平成 25 年　8 月　7 日改正

平成３０年度　全日本中学校特別活動研究会　全国理事名簿

平成30年8月24日

会 長	上岡　祥邦	足立区立六月中学校	121-0814	東京都足立区六月１－30－１
副会長･事務局長	青木　由美子	小平市立小平第五中学校	187-0032	東京都小平市小川町１－798

都道府県	氏 名	学 校 名	〒番号	所 在 地
青森県	藤澤　　均	八戸市立市川中学校	039-2241	八戸市市川町赤畑34－2
岩手県	樋下　照男	盛岡市立大宮中学校	020-0866	盛岡市本宮字大宮5－1
山形県	植松　英敏	東根市立第三中学校	999-3722	東根市大字東郷1922番地
福島県	二平　光明	福島市立立子山中学校	960-1321	福島市立子山字大稲場20
群馬県	須永　一弘	前橋市立第七中学校	371-0814	前橋市宮地町260－1
茨城県	和田　雅彦	水戸市立千波小学校	310-0851	水戸市千波町1538－1
栃木県	月井　順一	那須塩原市立黒磯中学校	325-0051	那須塩原市豊町5－3
東京都	上岡　祥邦	足立区立六月中学校	121-0814	東京都足立区六月１－30－１
東京都	青木　由美子	小平市立小平第五中学校	187-0032	東京都小平市小川町１－798
神奈川県	星野　泰天	川崎市立御幸中学校	212-0005	川崎市幸区戸手4－2－1
静岡県	土屋　和也	富士市立須津中学校	416-0826	富士市中里1156
石川県	中野　務	加賀市立山代中学校	922-0322	加賀市上野町工45－2
福井県	柴田　顕光	福井市立進明中学校	910-0003	福井市松本1－10－1
岐阜県	大澤　賢二	本巣市立本巣中学校	501-1203	本巣市文殊120
滋賀県	伊丹　稔	近江八幡市立安土中学校	521-1341	近江八幡市安土町上豊浦862
大阪府	廣瀬　浩	守口市立庭窪小学校	570-0002	守口市佐太仲町1－6－10
兵庫県	中村　喜代久	神戸市立八多中学校	651-1343	神戸市北区八多町附物876
奈良県	本多　敏人	王寺町立王寺南中学校	636-0021	北葛城郡王寺町畠田9－1703
和歌山県	西川　彰彦	和歌山市立明和中学校	641-0012	和歌山市紀三井寺832－1
岡山県	小野　大	岡山市立福南中学校	702-8054	岡山市築港ひかり町10－35
山口県	村田　正俊	萩市立越ヶ浜中学校	758-0011	萩市大字椿東6089－4
鳥取県	松岡　昭長	鳥取市立青谷中学校	689-0501	鳥取市青谷町青谷4190－1
島根県	大庭　匡史	益田市立美都中学校	698-0203	益田市美都町都茂1947
香川県	細川　昌宏	さぬき市さぬき南中学校	761-0901	さぬき市大川町富田西2823番地
徳島県	池渕　隆義	鳴門市立鳴門中学校	772-0052	鳴門市鳴門町三ツ石字芙蓉山下251
愛媛県	渡部　公人	松山市立南中学校	790-0932	松山市東石井7－2－52
福岡県	新開　啓示	筑紫野市立二日市中学校	818-0061	筑紫野市紫1-6-1
佐賀県	角田　雅弘	神埼市立脊振中学校	842-0201	神埼市脊振町広滝594－1
長崎県	小田　達也	大村市立郡中学校	856-0809	大村市沖田町69番地
熊本県	豊田　浩之	熊本市立河内中学校	861-5347	熊本市西区河内町船津2470番地1
大分県	皆見　秀樹	大分市立吉野中学校	879-7871	大分市大字辻812
鹿児島県	今村　正次	南九州市立知覧中学校	897-0306	南九州市知覧町西元4160
宮崎県	荒木　寛	宮崎市立宮崎北中学校	880-0045	宮崎市大字大瀬町247
沖縄県	友寄　隆央	金武町立金武中学校	904-1201	金武町字金武3486番地

第47回 全日本中学校特別活動研究会大会 実行委員会名簿

	運営役職	氏　名	勤　務　校	職　名
全国会長		上岡　祥邦	足立区立六月中学校	校　長
実行委員長		青木由美子	小平市立小平第五中学校	校　長
事務局長		荒巻　淳	江戸川区立松江第一中学校	副校長
副実行委員長	総務部顧問	弓田　豊	中野区立中野中学校	校　長
副実行委員長	運営部顧問	勝亦　章行	練馬区立関中学校	校　長
副実行委員長	編集部顧問	松本　康夫	東村山市立東村山第七中学校	校　長
副実行委員長	研究部顧問	齋藤　実	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	統括校長
総務部	部　長	植木　俊孝	小金井市立小金井第一中学校	副校長
	副部長	瀬戸　完一	葛飾区立新小岩中学校	主幹教諭
		酒井　寛子	足立区立第十四中学校	教　諭
	顧　問	弓田　豊	中野区立中野中学校	校　長
会計部	部　長	藤本謙一郎	練馬区立石神井東中学校	主幹教諭
運営部	部　長	谷口　典夫	狛江市立狛江第一中学校	主任教諭
	副部長	田爪　一浩	中野区立第七中学校	副校長
		桒原　美絵	狛江市立狛江第一中学校	教　諭
		有川　直志	江東区立有明西学園	主任教諭
		吉田　義和	練馬区立開進第三中学校	主任教諭
	顧　問	勝亦　章行	練馬区立関中学校	校　長
研究部	部　長	吉川　滋之	東村山市立東村山第五中学校	主任教諭
	副部長	大塚　隆弘	江東区立深川第一中学校	主幹教諭
		加藤　拓人	江戸川区立小岩第三中学校	主任教諭
		小野　貴史	江戸川区立松江第一中学校	教　諭
		原　奈都子	江戸川区立小松川第二中学校	主幹教諭
		横山　清貴	中野区立第四中学校	教　諭
		藤井　拓也	世田谷区立船橋希望中学校	教　諭
	顧　問	齋藤　実	武蔵村山市立小中一貫校村山学園	統括校長
編集部	部　長	滝沢二三雄	江戸川区立南葛西中学校	副校長
	副部長	伊木　文枝	東村山市立東村山第三中学校萩山分校	主幹教諭
		鹿野天一朗	足立区立第十中学校	教　諭
		田中　識啓	江戸川区立小岩第三中学校	主任教諭
		村田　淳悟	江東区立深川第五中学校	教　諭
		佐藤　勝賢	大田区立南六郷中学校	教　諭
	顧　問	松本　康夫	東村山市立東村山第七中学校	校　長
監　事	会計監査	山田　正隆	江戸川区立松江第五中学校	校　長
	会計監査	大熊　恵子	練馬区立豊玉第二中学校	副校長
相談役		加々美　肇	江東区教育センター	
		佐々木辰彦	東大和市教育委員会	
		長谷川晋也	墨田区教育委員会	
当日の運営補助		練馬区立中学校教育研究会特別活動部員		
		足立区立中学校教育研究会特別活動部員		
		江戸川区立中学校教育研究会特別活動部員		